

744

32

著者 丸山侃堂
本日の下變事

丸山侃堂著
人文書院



0004769000

0004769-000

744-32

事変下の日本

丸山侃堂・著

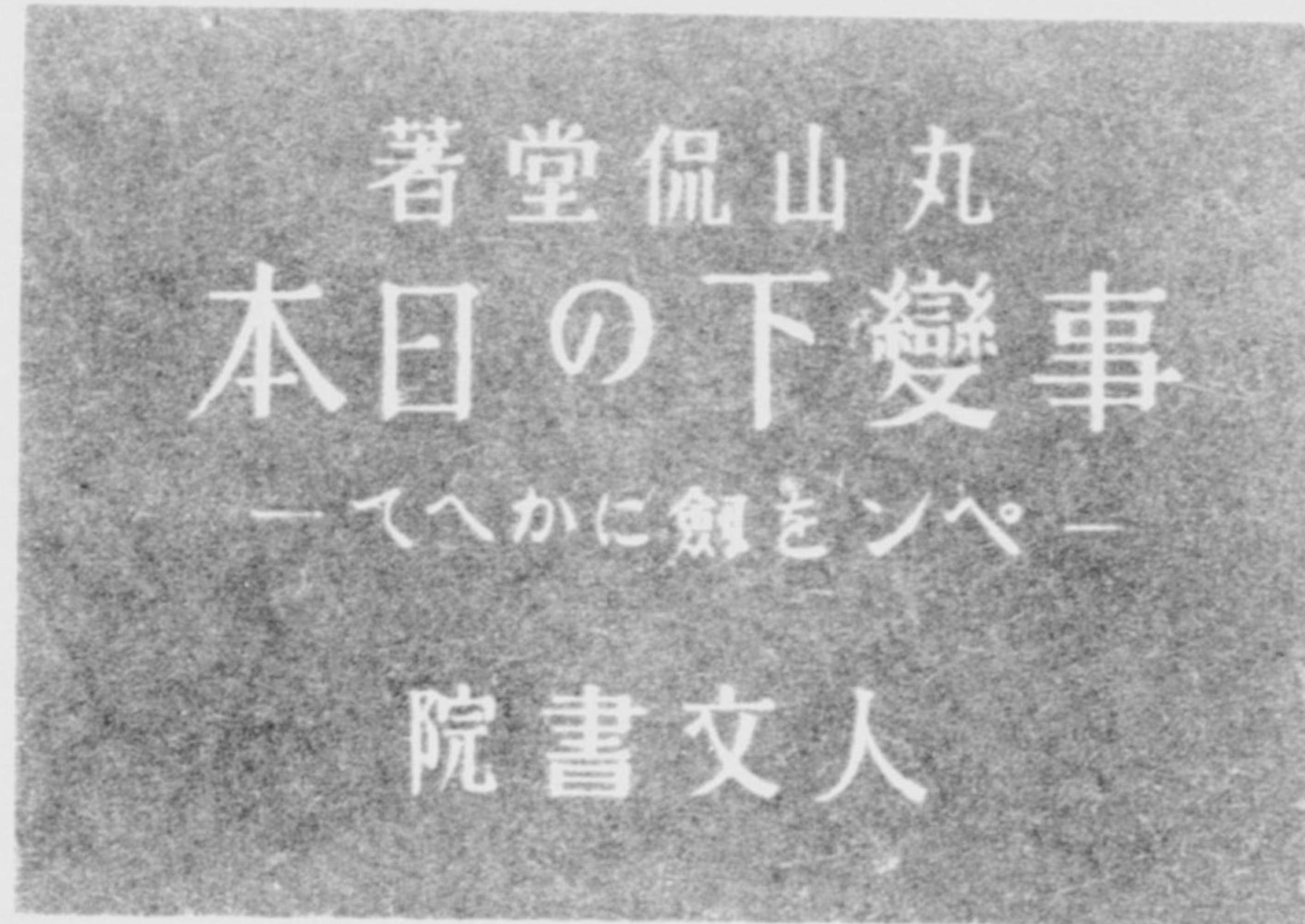
人文書院

昭13

ABC

744

32



53



院書文人



自序

人文書院の清水君から矢の催促を受けて、この愚著を出す。

大阪毎日新聞に『硯滴』を執筆してから、丸九年になる。一昨年秋から東京日日新聞の『餘録』が模様變になつて、大毎の『硯滴』は東日の『餘録』さいふことになつた。その硯滴を集めたものを出版したこともあるが、硯滴、餘録を集めたのは今度が初めてだ。それも昨年七月の北支事變勃發後から、南京陥落まで半年足らずの分で、その以前のもは、今讀むと、自分でかいたものとは思へないやうだ。

余は別に『轉向』したのではない。余は事變前から所謂自由主義者ではなかつた。余に主義ありとすれば、新聞主義者である。時勢が變れば、新聞も變る。余は新聞記者さいふものは、型にはまつた主義に囚はれてはならないと思つてゐる。新聞は時勢に追隨すべきでなく、時勢に先んずべきものだ、時勢に媚びを呈すべきでなく、時勢を導くべきものだ、さいふことは、それに違ひない。

しかし、同時に新聞記者は、時勢に統制さるべきでなく、自ら統制しなければならぬ。それによつて時勢と不即不離の立場を占めなければならぬ。時勢と衝き突つて、初めてその變化を意識するやうでは、新聞記者的感興はないのである。新聞記者的感興と新聞記者の良心とは、良心があつても、矛盾しない。

感興のない記者、感興があつても良心がない記者は、いづれも片輪ではないかと思ふのである。そして余は、自由主義といふやうな固定したものに縛られて、時勢の壓力に自由を感じるやうなことは、すでに新聞記者としての道を踏み外したものだと思ふのである。

新聞記者はあくまで新聞道を潤歩しなければならぬ。この新聞道として、國家が直面してゐる非常時に際し、獨善的首論や孤高的主張を發表すべきでないことは勿論である。余は事變前に於て力説したことについて、今は多く沈黙してゐる。時勢から壓迫されての沈黙ではない、沈黙することにあつて、余は新聞記者としての本分を守つてゐる。そこに自制による自由がある。若し余にして時勢を恐れ、時勢を憚り、あつちに遠慮し、こつちに迎合し、筆端縮、理路がシドロモドロのやうなものをかいてゐてなら、余は新聞記者として極めて不幸でなければならぬ。しかし、現在未だ、ごうやら、かうやら、毎日愉快にお茶を濁してゐられる。疑もなく、余は新聞記者としての現在を、非常に得意として

ゐない。これ見よがしに、時勢に羽搏する人とは違ふ。これだけ、時勢に遅れてゐるのかも知れない。しかも無理に、スピードを出して時勢を追ひかけるだけの心臓も持ち合せない。現在のところが精一杯だ。余としては記者的良心の限界に於て、新聞道に精進する外の藝はないのである。

昭和十三年一月廿一日

丸 山 幹 治

目次

從軍記者論……………一
蘆溝橋事件……………元
支那の聲明……………三
北支派兵の聲明……………三
舉國一致……………四
外人の支那觀……………六
英外相の憂慮……………六
事件不擴大方針……………元
隱忍自重の限界……………三
戦時の特別議會……………三
偽裝の友軍……………三
各相の演說……………七
第二十九軍攻撃……………八
軍閥の私兵……………四
殷汝耕君……………四

米國と中立法……………四
香月司令官放送……………四
通州事件……………四
蔡廷楷……………四
弱者の不正義……………五
自由の限度……………五
侮れぬ支那兵……………五
世界教育會議……………五
北支の現地解決方針……………五
後顧の憂を除く……………六
抗日商賣……………六
上海は何ぞ……………六
支那の飛行機……………六
九國條約とは……………六
海軍航空隊……………七

臨時議會召集	七
支那機の上海空爆	七
韓非子の亡徴	七
英の上海出兵	七
蔣政権の見透し	七
議會の形式化	七
金の洪水	七
陸軍上海上陸	七
英の上海中立地帯案	七
支那兵は強いのか	七
英大使の禍	七
支那へ行くペランカ機	七
支那の日本観	七
蘇支不可侵條約	七
技術拙劣の信用	七
輿論に勝つぬ大統領	七
蘇聯と支那	七
議會の両面	七

日本の交戦目標	一〇五
國民使節	一〇七
英國の抗議	一〇
戦時體制	一一
伊ソの摩擦	一一
上海戦の意義	一一
支那聯盟へ提議	一一
首相の街頭第一聲	一一
英首相の現實主義	一一
自治統制	一一
米國中立法の意義	一一
遊撃戰術	一一
米紙の決論	一一
心腹の患	一一
國民使節と宣傳	一一
南京空爆の通告	一一
支那兵強し	一一
空爆通告の反響	一一

英大使負傷事件解決	一四三
ソ聯の現金主義	一四
米大統領と獨裁	一四
蔣介石、國民黨、共產黨	一四
日本の正直	一四
戦争の人道化	一四
代用品獎勵	一四
日本離間は駄目	一四
戦時の貿易	一四
都市空爆の發明者	一四
英米の反日大會	一四
烈國の耳が痛い	一四
地中海浪高し	一四
勝手な理論	一四
シヤムの棄權	一四
首葉は首動を生む	一四
孫逸仙と日本	一四
英國の良心	一四

勝利に驕らぬ	一八〇
内閣參議	一八二
米國勞働團體の反日	一八四
地中海を争ふもの	一八六
北支と原料	一八八
内藤湖南の支那論	一九〇
森林の保護	一九二
日本と九國會議	一九五
英國外交とイデオロギー	一九七
衆智と衆力	一九八
招請の口上	二〇〇
文相更迭	二〇二
ソ聯の敵	二〇三
大隈侯の支那論	二〇五
聯盟の三銃士	二〇七
持久戦と經濟力	二〇九
日本を知るキャツセル氏	二一一
わが回答書	二二三

ソ聯と九國會議	二二五
蔣介石の豪語	二二七
英國の正體	二二九
大本營の設置	二三一
日清戰爭當時の列國	二三三
米國外交の二重性	二三五
英米の協力	二三六
在滿治外法權の撤廢	二三八
日獨伊防共協定	二三〇
米國と蘇聯	二三三
死の同盟	二三三
蘇聯の總選舉	二三六
文官任用令改正	二三八
日本の脚は鋼鐵	二四〇
英國東洋艦隊	二四三
英國と三國協定	二四五
新國策會社	二四七
支那を煽動するもの	二四九

社大黨の表看板	二五一
イーデン外交	二五三
大本營設置	二五五
民衆の外交常識	二五七
南京遷都宣言	二五九
大本營と内閣制察	二六一
孫文の墓	二六三
外交官の行方	二六五
防共協定一周年	二六七
對支文化工作	二六九
官氣と民氣	二七一
蔣介石の背後のもの	二七三
ビヤード博士の米國論	二七五
伊太利の滿洲國承認	二七七
英國の批判主義	二七九
十三年度豫算	二八一
英獨會談	二八三
媾和の相手	二八五

第三國との媾和	二八七
英國と三國干涉	二八九
ソ聯の排外教育	二九一
南京陥落の第一報	二九四
宇垣參議と外人記者	二九六
誤謬の犠牲	二九八
松井指揮官の勸降文	三〇一
歴史的録音	三〇三
三つの日本に對する誤算	三〇四
日本人の道徳的誇負	三〇六
末次新内相	三〇八
パネー號砲撃事件	三一〇
南京入城式	三一三

目次終

從軍記者論

今の從軍記者も随分持てゐる。方々の座談會や講演會に引張風だし、高級雜誌でも從軍記者の書かぬものはないが、しかし昔の從軍記者は今日に比べて一層花形だつた。

國木田獨歩は國民新聞記者として日清戰爭に従軍し、愛弟通信で文名を擧げ、それが縁となつて佐々木信子と相識るに至つた。從軍しなかつたら、佐々木家に入ることもなく、得戀も失戀もなかつたであらう。獨歩の一生の運命は、從軍記者となつた時に定まつたといへるのである。

日清戰爭の從軍記者として有名になつたのは獨歩のみでない。余の識つてゐる範圍でも後で大阪朝日の主筆になつた鳥居素川氏は日本新聞の從軍記者として認められた。東京日日新聞に

異彩を放つたのは黒田甲子郎氏の戦時通信で、何しろ士官學校を卒業した氏だから軍事知識はあるし、文才もあり、放列を砲列とかくやうな當時の軍事通信とは違つてゐた。氏は士官學校の卒業式に痛飲し、日頃面憎く思つた生徒隊長を校庭の木に上つて大聲罵倒した。それで少尉になれず、下士に落されたので新聞記者に轉身したのである。

宇垣大將の陸相時代に昔からの従軍記者を官邸に招いたことがある。たしかその後も催されたやうだが、犬養毅氏も一度出席した。氏は報知新聞の前身、郵便報知新聞から特派されて西南戦争に従軍した。東京日日新聞からは主筆の福池源一郎氏が出馬した。この二氏が従軍記者の元祖である。福池氏は戦地から歸つて、御前でその實況を申し上げた。

犬養氏の通信には、大西郷の岩崎谷に於ける最後の光景が、四百字詰の原稿紙で一枚半に叙されてゐる。

「此の時諸軍既に四方の山頂に躋攀し俯して谷中を射撃して進み、或は刺し或は射る賊支ふる能はず奔りて岩崎谷の壘に集る時に我兵既に西郷隆盛を殲す賊其の首を斬り且つ戦ひ且つ走り數人駢死し一賊其の首級を提て林中に通れ之を埋む——戦全く止む諸軍喧呼して曰く我れ西

郷を獲たり我れ西郷を獲たりと、而して西郷の首は果して誰が手に落つるを知らざる也、午前九時偉身便服の一屍を獲て來り之を検すれば果して西郷なり尋て其の首級を獲たり首は尸の傍らに埋め微く頭髮を露す因て之を掘出し遂に桐野等の尸と併せて淨光明寺に集め兩參軍、以下諸將之を検し、同所に埋む、實に、明治十年九月二十四日也」こんな調子であつて四五行、英雄の末路を悲しんだものだ。従軍記者もこれなら樂なものである。

現在生存してゐる昔の従軍記者は、日清、日露時代の人が一番ふるい。日清戦争時代の人では、徳富蘇峰、朝比奈知泉の兩氏もあるが、いづれも社長と、主筆とかいふ地位にあつて、廣島の大本營や馬關の媾和談判地から通信した位のものだ。蘇峰氏は大總督府について金州まで往つた記事があるから、まア従軍記者といへぬこともなからう。古島一雄氏や井上龜六氏は「牛馬及新聞記者」といつた待遇を體驗した人達である。

つまり日清戦争では従軍記者の待遇に關する規定がなく、うるさい奴等だが牛馬と一緒に輸送しても差支ないといふことになつて居たので、黒田甲子郎氏の談によれば食物などもろくに宛てがはれず、宿舍も何處へなり勝手に取れといふ厄介者扱ひだつた。日露戦争に初めて陸

海軍共に従軍記者の待遇や取締について一定の規則を設けた。外國新聞記者が多かつたので内地の記者も牛馬扱ひにできず、従軍記者心得を公布したのである。

陸軍の心得に外國人に關する規定が多いのも當然だが、第五條に「必要ある時は數箇の新聞社につき總代通信員として一名の従軍記者を選定せしむることあるべし」とある、これは従軍記者の數を成るべく少くしようといふ考があつたからだ。同條第二項には「場合により陸軍は従軍記者を出すべき新聞社を指定することあるべし」とある。そのくせ外國人には通辯一名、従者一名を伴行する事を許してゐる。第八條に従軍記者は常に洋服を着し左腕に日本文字を以て所屬の社名を赤記すべしとある。その頃は常に洋服を着ない新聞記者が多かつたからである。第十一條は規定に違反したときは高等司令部に於てその従軍を「謝絶」とある。「謝絶」も面白い。第十一條も通信檢閲のこと、第十二條は、従軍記者には軍衛軍隊に於て事情の許す限り相當の待遇と便宜を與へ且戰地にありては實際の必要に依り糧食等を官給し、其他本人の請願に依り、舟車の便乗を許可することあるべしとあり、第十三條は犯罪に對する處分の規定。すべて十三條だが、海軍従軍記者心得は第七條で、待遇にする明記なく、服裝について

も、「洋服を着し低圓形にして庇附の帽を用ひ」云々とある。この陸海軍の規定は今回の事變にも准用されてゐる。

今は北支にも上海にも一社から多きは數十名、少きも數名往つてゐるが、その多數は前記の規定による従軍記者の資格があり、待遇があるものでない。従軍記者制限主義は嚴格に守られ、せいゝ一社で一師團一名位の従軍記者が許され、あとは無資格の従軍記者である。無資格とはいつても、やはりその手續を履みて陸軍省の許可がなければならず、モグリでは決してない。許可證がなければ戰地へ上陸も許されないが、當局の方針は、實質的には明かに従軍記者の制限主義でなく、無制限主義である。多々ますゝよろしといふ方針である。これは従軍記者を厄介物扱ひにし、若くは成るべく制限しようとした時代より、當局のジャーナリズムに對する認識が深まつたのである。つまり近代戰の一機能として従軍記者の職能を評價するに至つたのである。

従軍記者の資格があるとか無いとかは、その社のものでも知つてゐるものはない位のものだ。彼等はすべて特派員として働いてゐる。北支にも上海にも軍司令官格の支局長とか何とか

いふものがあつて、従軍記者はその統制の下にある報道陣の一員である。従軍記者の粒を選ぶより数を多くするのが新聞社の方針である。従軍記者も一騎打でなく全體戦であつて個人的技倆を現はし得る機会は少い。組織と組織との競争であり、資本と資本との競争であるからだ。

現に數百名の従軍記者が奮闘して日々の紙面はその戦時通信で埋つてゐるが、一般の讀者は殆ど従軍記者の名を記憶しない。大きな標題の下に従軍記者の名は壓倒されてゐるのである。

しかし余の見るところによれば、今の従軍記者は昔のそれより粒が悪いのでもなく、質が劣つてゐるでもない。たゞ今の新聞が昔の新聞に比べて非常に特異性がなくなつたやうに、従軍記者にも特異性がなくなつたに過ぎない。

昔の従軍記者は、といつても余の経験は旅順の攻圍軍だけで、すべての様子が他軍とは異つたが、軍司令部に屬し、一定の宿舎に共同生活をやり、兵隊さんの運んでくれるバケツの飯をくひバケツの味噌汁を吸ひ、折々參謀に引率されて、戦争を「聽」いただけだつた。だから、従軍記者のかいたもので後世に残るものは一つもない。「肉弾」も「此の一戦」も従軍記者ではかけなかつたのは當然であつた。

當時の記者中には、相當の文士も居つたし、文章家も居つたが、恐らく軍事通信を本にしたものはあるまい。「従軍三年」の澁川玄耳氏も、軍の法務官か何かだつたのである。

今の特派員や従軍記者は、兵隊さんと一緒に行動し、一緒に苦勞し、文字通り露營の夢を見、彈丸雨飛の間に往來して其材料を取るの、眞に命掛けだ。故に犠牲者も少くない。だから死んだ通信は一つもない。いづれ書物にもなるたらうし、あとで「肉弾」や「此の一戦」以上の戦争文學をかく人も従軍記者のうちから出るであらう。

しかも、あけすけにいへば、新聞で讀む通信は、あまりキレよく、挿話的で、小品的で、一寸物足らなく思はれる。新聞の上では、従軍記者として文名を擧げるなどの野心を抱く時代ではなくなつたのである。

大毎・東日の社長、奥村不染氏や、同社前重役の松内冷洋氏なども日露の従軍記者として鳴らした。その通信を愛讀した人も現存してゐる。東西朝日に光彩を放つた上野岩太郎氏の雄渾な文章も余は記憶してゐる。

今の特派員にも文士のかくものは昔の戦時通信に似てゐる。日露にも岡本綺堂、田山花袋、

半井桃水その他知名の文士が従軍したが、文士にも記者感ある人となない人があるやうに見受けられる。

昔の新聞は読者も少く、今の高級雑誌程度のインテリが多かつたから、紙面も落着いてゐたのだらうと思はれる。無論時代が違ふのだ。一概にいゝとか悪いとかいへない。

昔の新聞は戦時でもノンビリしたもので、かなり自由が利いた。差止命令は頻々と出たし、やかましい取締もあつたが、新聞社は馬鹿正直にそれを守るに及ばないと思つてゐた。違反して叱られるのが當り前だつた。新聞社は當局を恐れるよりも読者を恐れた。読者の愛國的情熱の中に新聞は捲き込まれたといつてもよい。内村鑑三、幸徳秋水、堺枯川の三人が萬朝報を去つたのは、その非戦論が當局に睨まれたからでなく、読者に反對されたのである。涙香氏の書いた「朝報社は戦ひを好む乎」といふ一文はこれを示してゐる。氏はいふ「外交の手段つきて、戦ひの避くべからざるに至り猶ほ戦ひを避けんとするは醫藥の手段既に盡きて死の避くべからざるに至り猶死を避けんとするに似たらずや、吾人故にいへり、避くべからざるは避くべからざるなり」

「戦争の局面既に一變し、外交期より戦争期に入りたるを無視し、依然として當局者の能く戦ひを避け得ざりし外交的拙策を咎むるに身を委ね、戦ひを顧みず差措くべきか、將た當局者を責むることを後日に譲り、舉國力を一にして戦ひに關する一切の手段を遺漏なく盡すべきか、吾人は後者を選ばんと欲す」

黒岩社長は斯く宣言して非戦論者を去らしめたのである。読者の統制が然らしめたのである。言論のみでなく、記事にも自由があつた。「新聞之新聞社」から出版した従軍記者の思出話によれば、徳富蘇峰氏は桂首相と特別の關係があつたに拘らず、國民新聞はいつも當局から叱られる點で他社の後に落ちなかつた。同社の記者、結城禮一郎氏の佐世保通信のために、徳富社長は桂公から度々小言を食つた。結城氏は鎮守府に呼びつけられ、烈火の如き參謀長から「軍人なら銃殺してしまふところだ」と嗚鳴られ、佐世保退去を命ぜられた。それから氏は芝罘へ住つたが、見方によつては露軍に有利と解さるるやうな通信をして露探呼はりされた。

大連ではその通信で軍政署に呼びつけられ「軍の機密漏洩で本來なら銃殺に處すべき所だが新聞記者だから速刻追放する」と言渡され、憲兵に連れられて退去した。しかしこんなことは

別に珍らしくはなかつたので、普通の記事差止命令違反くらゐに思はれてゐた。それだけ新聞社が我儘で、政府の睨みが利かなかつたといへる。

現代の新聞はさうは行かぬ。戦争目的を達するための嚴重な統制から、インキの一滴も漏らされない。國民精神をこの一點に集中し、最高度の緊張を永続的ならしめるために、毎日／＼そのたるみなき努力を続けなければならない。だから特派員や從軍記者も、いはゞ昔のやうなフリーランス的な呑氣なものでなくなつたのである。自由に感想を洩らしたり何か出来ない。

日露戦争に余は日本新聞の從軍記者であつた。第一軍には三浦勝太郎氏、第二軍には安藤正純氏、第三軍には余、後に余に代つて稻垣伸太郎がゆき、その他一二名あつた。

年少の余を從軍させてくれたのは、編輯長古島一雄氏であつたが、社内では、あんな小僧をやつてどうするといふ物議があつたと聞いた。前記の如く全軍を通じての一社一員といふのだから、余も地方新聞の社名をかりて從軍した。陸軍省では無論それは承知の上であつた。

安藤氏と余は從軍許可になるまで陸軍省詰になつて、代る代る公報を筆記して社へ運搬したり、電話したり、又は參謀から戦況の説明をきいて記事にしたりしてゐたが、二人とも精勵格

勤の記者ではなかつた。安藤氏は折々顔も出さぬこともあつたが、役不足だつたのであらう。

余も毎日陸軍省の記者室で雑談と欠伸とに時間を潰し、夕方にはさつさと引揚げた。それでも往復二人曳の人力車で、余の月給より車代の方が高かつた。

第二軍に安藤氏が出發してから余はジリ／＼して從軍許可を待つたが、第三軍の先發部隊の鹽大澳に上陸したのは三十七年六月六日で、第二軍が南山を陥れ、大連を占領して北進したあとを引受け、七月廿五日から攻圍戦に移り、やつと從軍を許された。

第三軍の從軍記者は全國で三十餘名、そのうちに畫家もあつた。字品で打揃ひ、御用船に乗せられたが、待遇は將校格であつた。一行の長老は、朝日の半井桃水氏、中央の大岡力氏で、大毎から太田（春秋）原在文氏、畫家の織田東禹氏、國民からは久保田金僊氏、地方新聞からは社長とか主筆とか老人株が多く、廿五歳の余は最年少者であつた。今日は元氣潑刺たる青年記者でなければ勤まらぬが、電報一つ打つでなく、書面通信だけだから老人でも勤つた。余は大連につくまで端書一枚社へ出したきりだつた。

宇品から大連まで七日もかゝつたので、いかに迂廻航路を取つたかを知られ。廣瀬中佐、杉野兵曹長の閉塞隊が五月に第三回目の旅順閉塞をやり、東郷司令長官が遼東半島南部の封鎖宣言をした後にも、浦潮の露艦は日本海に出没し、常陸丸の悲劇、佐渡丸の遭難、高島丸の撃沈など六七月にわたりて輸送線の安全はしばしば脅かされて國民を切齒せしめ、上村第二艦隊司令長官は五里夢中に彷徨するなど悪口し、その留守宅に投石したものがあつたといふ頃だつたから、御用船は燈火を滅し、そろり／＼と探り足で航海したのであつた。上村艦隊が露艦三隻と蔚山沖で戦つて一隻を撃沈し、二隻に大損害を與へ、露兵六百餘名を救助して國民の溜飲を下げ、感謝状を送られたのは、余等の航海後の八月十四日であつた。

大連で待機中、第三軍の旅順攻圍作業は進捗し七月下旬の攻撃により狼山を占領し、次で大孤山、小孤山を陥落し、八月十日の海戦に於ける勝利と相待つて敵を海軍より壓迫し、八月十六日乃木軍司令官は山岡中佐を軍使としてステツセルに勸降書を與へ、先方よりも軍使を以て拒絶し、ここに十九日より本防禦線に對する第一回總攻軍となつたが、余等はその頃にやつと軍司令部の近くに宿舎を與へられ、山岡中佐に引率されて觀戰するを得たのであつた。

觀戰といつても山上より望遠鏡で敵の砲壘に向けられる我軍の砲撃を見るだけで、歩兵突撃などは一度も見たことがない。しかもこの間に我軍は三晝夜に亘る肉弾突撃を以て東西盤龍山砲台を占領したに過ぎなかつた。タイムスの軍事評論家のいつた如く、「みかど陸軍」の奮戦を以てしても、近世的の永久防禦線は容易に陥らず、日清戦争の旅順の如く一氣には片づかぬことがわかつた。そこで正攻法を用ひ、工兵の活動により塹壕戦が行はれ、約一ヶ月を経て九月十九日より二十四日に至る部分攻撃となり、十月廿六日より十一月三日までの第二回總攻撃となり、十一月廿五日より十二月五日に至る第三回總攻撃となり、二〇三高地の占領によつて完全に敵艦隊を全滅せしめ、卅八年元旦ステツセルは軍使を以て降を乞うたのである。

余等は第一回總攻撃後には、徒らに軍司令部の宿舎から山上の展望をすることができなくなり、思ひ／＼に自由行動を取り出した。それで山岡參謀から、諸君が危険を冒して死ぬのは勝手やうだが、死骸を片づけねばならぬから自由行動は相成らぬと嚴達されたに拘らず、相變らず毎日歩き廻つた。第一師團の占領した海鼠山、水師營の陣地を訪ひ、生々しき苦戦の跡を見た。第九師團長大島久直中將が黒の軍服の上に兵兒帯をぐる／＼巻きつけ、大刀を横へ、威

風凜然として參謀を叱咤しつつあるを見た、一戸兵衛少將が敵の砲火を浴びつゝ黙々として副官の報告を聞いてゐる古武士的風格を見た。

戦線の將兵はいづれも從軍記者を歓迎した。その乏しい支給品を割愛して余等を饗應した。彼等の語る所は公報につくさざる戦争の眞實味であつた。決して文字にて書き現はせない戦争の嚴肅味であつた。余等はだん／＼大膽になり、我軍の占領しつゝ敵とベトンの壁一重隔てゝ對峙する砲壘の中まで恐る／＼塹壕路を匍つて往つた。其の途中が却つて危ぶなかつた。間斷なく敵の巨砲は放たれ、余等と二三十間とは離れぬあたりに落ちる。その物凄い音と濛々たる土煙の中に余等は必ず尻餅をつくのである。一時は岩石の破片に中つて、やられたと思ふ。弓字形の塹壕路の中では頭上をビュー／＼小銃弾が飛ぶ。それが無氣味で大砲より恐ろしかつた。更に恐ろしいのは敵壘のサーチライトを浴びて居る時だ。思はず首を縮めて塹壕の底へしがみつくのである。

二龍山砲台は、我軍の血で赤く染められた最大の苦戦場の一つであつた。余等の往つた時は、その中腹にある散兵壕の半分づゝ敵味方の手にあつた。我軍の工兵は盛んにベトンの破壊

作業をやつてゐた壕壁の壞れたところに席が掛つてゐる。敵壘を覗く穴に日光の射すのを防ぐのだ。席の中へ首を突込んで見ると、そこには文字通り累々たる屍の山だ。味方もあり、敵もある。前回の總攻撃の跡がそのままになつて居るのである。鬼哭啾々といつた光景が、今も目についてゐる。

殊に余の忘られない光景があつた。それは忠勇無双の我將兵を象徴的に描いた一幅の畫、一篇の詩ともいふべき悲壯な現實であつた。一人の日本軍人とのみで、何人とも知れない、何階級とも知れないが、敵壘の直下に斃れてゐる。その傍らに日章旗を立てられてゐるのである。いふまでもなく、先登第一にこの日章旗を敵壘に立てんがために突貫して戦死したのである。余がその光景を叙した通信は當時參謀本部の問題になり、長岡參謀次長は余の通信があまりに戦争の悲惨を描き過ぎると日本新聞社員に注意したとのことである。

余は當時を回想する毎に、乃木大將の心事を思うて眼頭が熱くなる。大將は天幕を數十打列ねた軍司令部の一室で、余等を引見し、また突然、その馬上の英姿を余等の宿舍に現はし、ニコ／＼しながら何か不自由なことはないかと親切にいはれた。大將は余等の仲間の乞ふがまゝ

に絹や紙に字を書かれた。

しかもその時はすでに金州城外斜陽に立ちて令息の戦死を弔はれた將軍であり、またその時は一回の總攻撃に一萬の死傷あり、敵の堅壘は着々我軍の手に歸しつゝあつたが、バルチック艦隊は約八ヶ月の準備成り九月十一日を以て東洋に向つて出發した報を聞いた將軍である。旅順港はいかに堅固な要塞でも、敵の主力から完全に遮斷された一枝隊だから、氣長の攻圍戦を以てすれば、陥落は時日の問題である。しかもその時日の問題が、此の場合の將軍には此上なき重要性を帯びるものであつた。バルチック艦隊は一日／＼近づくのである。それを迎へるためにわが軍艦は修理を加へねばならぬ。だから旅順は如何なる犠牲を拂つても強襲また強襲によつて一日も早く陥落させねばならぬ。少くとも旅順港の敵艦を全滅せねばならぬ。

山縣元帥からは矢の催促だつた。攻撃の捗らぬのを諷する元帥の詩は電報で來たのである。大將の胸中は勝算の歴々たるものあつたとはいひながら、そこに限りなき憂鬱があつたに相違ない。しかも大將に對する非難が囂々たりしに拘らず、明治天皇は深く大將を信じ給うた。十一月下旬第三回總攻撃を爲さんとするに際し明治天皇は左の勅語を第三軍に下し給うたのである。

る。

旅順要塞は天險に加工して金湯と爲したる所なり其の攻略の容易ならざる固より怪むに足らず朕深く汝等の勞苦を察し日夜軫念に堪へず然れども今や陸海軍の狀況は旅順攻略の機を緩うするを得ざるものあり此の時に當り第三軍總攻撃の事あるを聞き其時機を得たるを喜び成功を望む情甚だ切なり爾等將卒夫れ自愛努力せよ

こゝに第三軍は君國のために、乃木大將のために、悉く死を決した。聯隊長斃れれば大隊長が代つた。中隊長が代つた。小隊長が代つた。軍曹が代つた。斯くて二〇三高地の占領となつたのである。

余は旅順の陥落を見ることが出来なかつた。余は大毎、報知の特派員と共に戦地を去らざるを得なかつた。つまり規則違反で放逐せられたのである。陥落後に掲載すべく、特別の手段を執つて本社に送つた通信が、第二回總攻撃後に掲載された手違ひからであるが、余等の不謹慎は争へない。當時は左程悪いことゝも思はなかつたのは、軍事知識のない若氣の過失であつた。

乃木大將が凱旋後、紅葉館に第三軍の將校全部、從軍記者全部を招いて盛宴を張つた時に、余も末席に列する光榮を得た。大將は軍司令官に對する行賞の賜金を以て豪華版の慰勞宴を張つたのである。恐らくあの位の盛宴を張つたものは他の將軍にあるまい。大將は何百人の一人くく自ら酌をして廻つたのである。余はこの夜の嬉しさうな大將の顔を、大將自刃の夜に思ひ浮べて黯然としたのである。

蘆溝橋事件

七月九日 馮治安部隊の不法射撃は、滿ソの境に起つた事件よりも、原因不明だけに一層國民的衝擊が大きい。暑さの加減かも知れないが、かゝる事件を生ずるに至つた北支の情勢は意外でない。支那側の出方一つで、日本側の出方も一つでないことになる。

x

最近防空演習の効果が徹底し、殊に露機が數においても質においても、世界の何處にも劣らぬことが、スペインの内亂などで實驗されたので、空の脅威を一般に感じてゐる。飛行機に當るには飛行機をもつてする外はないのだが、しかも空軍を充實するには、國民をして空の脅威を感じさせるのみでは足りないと思ふ。

飛行機の軍事的價值を認識させると同時に、その文化的價值を認識させ、空の生活、空の興味、空の喜びを感じさせ、飛行機を國民の經濟的基礎としつかり結びつかせなくてはならぬ。

ロンドンの空はドイツから二時間の航程だ。そこに英國の富が集中され、生産力が集中され、軍需品工場が集中され、全國民を養ふ食料が集中されてゐる。飛行機工場の如きも大半はそこに集中されてゐる。その點は日本の集中状態よりもつと甚だしい。飛行機戦では、どうせ第一線は忽ち物の役に立たなくなるから、最も迅速に空軍を補充し、戦闘力を回復する方が勝つのだ。

世界戦争でロンドンを襲撃した飛行機は一度に廿三機が一番多かつた。しかも次の戦争には多分五六百機が一度に襲撃する場合を豫想しなければならぬ。それが一度や二度でなく、毎日のように雲霞の如き敵機が襲撃したら、いかに沈着な英國國民もロンドンにゐたくまらなくなる。ロンドンの工場破壊力、鐵道破壊力、家屋破壊力を恐れるよりも、經濟的打撃、精神的打撃が、戦争に決定的効果を與へることを、英國國民が戦慄してゐる。これが英國をして大軍備充實をやらせると同時に、第二世界戦争といふ乾坤一擲の大賭博開帳に躊躇させるゆゑなのだ。つまり空軍の脅威を感じることが、英國外交の基調であるのだ。何しろ三千萬個の毒ガスマスクが配布されるといふ有様だから無理もない。

支那の聲明

七月九日 一報はよいと思ふと一報は悪くなつたりして、形勢が猫の目のやうに變る。國民政府は事件の不擴大か最も急務だといふくせに、事件の責任が支那側にないなどと聲明する。事件の責任を自覺しないことはまた事件の原因となる。しかし停戦命令の徹底したのは事件の不擴大を望むものを安心させる。

廣田外相は先日の閣議で國內における各方面の勢力分裂状態は兎角外交方針を混亂させ、外侮を招き易いから。この際しばらく輿論をさへて學國一致外交の實現に邁進せねばならぬと述べたが、支那は維新以來しばらく日本の勢力分裂状態を弱點視して大事を惹起し、自らその播いたものを刈り取らねばならぬことになつた。

x

現在もわが對支認識は完全に一致してゐるといへぬが、支那人の抗日意識が統一意識と結び

ついてゐることに關しては誰も承知してゐるのである。經濟禦侮、武力禦侮、禦侮抗敵、安内攘外などの標語が何を意味するかを氣づかないやいやうなお目出度い國民ではない。

佐藤前外相が日本の出方一つで日支の危機になるといつたのは、日本の隱忍自重にも限界があることを示したのであつた。

X

日本は支那を正確に認識してゐる。むしろ支那の最近近代國家らしくなりつゝあることを高く評價し、三中全會の指導精神が著々實現されんとするを否認しない。鐵道五ヶ年計畫に於けるベルギー借款線、ドイツ借款條、イギリス借款線、英佛借款線などいふものが、支那の將來に關する重大な示唆を與へるのを冷靜に検討して、大局的に日本にとるべき道を考慮してゐるのである。つまり支那の新しい統一の機運に對して善處せねばならぬことを認識してゐるが、支那人の興奮的抗日意識が、日支關係を悪化しつゝあることを最も憂へるものは、この認識によるのである。

北支派兵の聲明

七月十二日 遂に北支派兵となり、上奏御裁可を経た帝國政府の重大決意は内外に聲明された。帝國政府が去る七日の事件發生からこゝに至るまでにとつた措置には、平和的解決を望む手段として間然する所なきを感ぜしめた。それだけ、國民はこゝに政府の斷乎たる態度に満幅の支持を與へるのである。

X

政府は、この事件の真相が支那の「計畫的武力抗日」に外ならぬを初めから承知の上で、しかも今では局地的解決を望んでゐる。この矛盾は、誠意の矛盾だ。平和に眷々たる矛盾だ。これほどまでにしても、遂に自衛權の發動を余儀なくされたことを、國民は十分に諒解し、國難打開のためにかつて日清戰爭に示し、日露戰爭に示した如き舉國一團の愛國的情熱を燃して、東洋平和の維持を妨ぐるものは何物たるを問はず粉碎する力を發揮せねばならない。

斯くいふわれらは、まだ決して支那に好意の手を引き込めたくないのである。支那は一體何を血迷ひ、何を誤算し、何を錯覺して、抗日的火遊びをしてゐるのであらうか。われらは支那に翻然として反省せしめんとするのである。

x

支那よ、今からでも決して遅くない、すみやかに下らない面子觀念を捨てよ。しかして塘沽協定、梅津・何應欽協定の精神に返り、先づ北支の安定をもつて、日支問題の全面的解決の端緒たらしめよ。これは支那國民に對するわれらの心からの言葉だ。

舉 國 一 致

七月十三日 「事ここに至つては」といふも、いはぬもない。言論界、貴衆兩院、財界の代表によつて舉國一致の聲は聞かれたが、日本中何處を叩いても同じ音しか出ないのだ。

「國際正義」をいふ町田總裁、「難局打開」をいふ鳩山代行、「一切の行懸りをすてる」といふ

安達總裁、その他小會派代表の異曲同調は勿論として、安部社大黨首の「驥尾に付し」ても、お座なりでない。冀察側が我が要求を容れた。一片の口約束でも一片の訛證文でも結局同じだ。

支那人はしきりに英雄をつくる。滿洲では馬占山が英雄になり、上海では蔡廷楷が英雄になり、綏遠では傅作義が英雄になつた。一人の英雄をつくる費用が如何に高價なるか、支那人はまだその決算を知るまい。

蔣介石氏は小兒的英雄崇拜意識の支那を誤ることを恐らく自覺してゐるのであらう。しかもそれを抑へるよりは利用して、抜き差しならぬことになるところが弱いんだ。

平津一帶の學生層、インテリ層が空騒ぎして廿九軍を動かしてゐるらしいが、廿九軍を動かしてゐる彼等の抗日意識は「贓品」によつて涵養されてゐる。贓品の一つは例のスチムソン氏の「極東の危機」だ。

先日、英國議會で支那の版權侵害が問題になつた。支那における英米書物の賣行は近年の國際情勢から著しく殖えた。科學書、技術書も賣れるが、殊に極東の政治問題を取扱つたものが大變に賣れる。これが支那人の抗日意識を増長させることを知らねばならない。

外人の支那觀

26

七月十六日 杉山陸相は、北支事變の最大原因を明かにした。即ち支那が日本與しやすしと妄斷し、かつ歐米諸國を誘引することによりて巧に日本を屈伏せしめ得べしとの妄想を抱懐するに至つたのが有力な動機だと述べた。

この點についてナザニエル・ペファアといふ親支米人が最近のエシアにかいた論文が參考になる。かれはやはり支那人の「覺醒」を説く。しかもかれ等は自己の實力を過信し、無謀にも日本と戦ふべしといふ聲を、血氣に逸る學生のみならず、分別盛りの支那人からも聞くに至つたのに驚いてゐる。

日本は、昭和六年九月十八日、支那の侮日、脅日の態度に答へた。その結果は滿洲國であり、冀東自治委員會であり、冀察政權である。日本をしてこの行動に出でしめたのは、支那であつた。支那が挑發したのであつた、と彼はいふ。

x

支那は今や同じ過誤を犯さんとしてゐる。支那は日本が支那の實力を恐れてゐると信じ、どんな眞似をしても「日本恐るゝに足らず」と思ひ上り、日本の軍備がソ聯を目標として近代化するにはまだ時がかかる、などと迷想を逞うして、好んで災厄を招かんとする。

實に、あぶない。なるほど支那は強くなつた。支那は政治的にも、軍事的にも、感情的にも統一された。日本が憎いといふ點に一致し、戦意に燃えてゐる。支那軍は二百萬に近い。飛行機あり、タンクあり、戦車あり、銃砲その他多く、廿年前と比べて「巨人」となつたが、日本に比べてはいふに足らぬ。

x

支那でも専門の軍人は自己を欺き得ないだらうが、大多數は知識階級さへ、非常に強くなつたと自惚れてゐる。そこへ外人に煽動するものがある。支那人の日支戦争を語つてゐるのを聞いてゐると、ばか／＼しい。支那よ、十年間はせつせと働け、國を強くせよ、沈黙せよと忠告してゐる。

27

これが何より北支の重大性を語るものだ。馬鹿につける薬なしといふわけである。

英外相の憂慮

七月十七日 身のほど知らぬといはうか、支那の増長態度は事件不拡大の望みをだん／＼稀薄にする。列國がそれに重大關心を持つのは當然である。

日支の問題は、支那の世界的意義からいへば、日英、日米、日ソの問題であり、世界各國の問題であるに相違ないが、日本はあくまで日支問題に他國のお節介を認めない建前だ。そこで列國は、支那を引きとめるためにいろ／＼手を盡す外はない。

お前は強くなつたが日本と戦ふほど強くなつたのではない。しばらく隠忍し、十年もじつとしてゐれば、今に強くなる。その時でも遅くない、といふ。さうかうしてゐるうちに自國の經濟的繩張りを擴大する意圖とは見え透いてゐる。しかも騎虎の勢、今や蔣介石の手綱で踏み止まることはできないやうだ。

X

英國議會における北支事變の質問に對してイーデン外相は「憂慮」の一語を繰返す。しかし日本軍の演習を非難した労働黨議員に對しては團匪事件の議定書による各國の駐兵權、演習權について述べ、日本の感情を尊重する慎重ぶりが言外に感じられた。

英國の現首相は、日英同盟を結んだ人を父とし、日英の提携論者を兄とする人だ。殊に支那の赤化に最も關心するのは英國の保守黨である。日英交渉は海のものとも山のものとも知れぬが、さういふ空氣の時局に反映してゐるのは争へない。

事件不擴大方針

七月十八日

「事件不擴大」は、もと／＼日本の心からの聲であつて、口のさきの聲でな

ら。たゞ如何にして事件不擴大の目的を達する。それは弱腰によらず、中腰によらず、中腰によ

らず、たゞ毅然、斷然たる強腰によるのみだ。

いふまでもないが、事件不擴大とは、このまゝ北支を煮たか沸いたか、わからぬ状態に置くことでない。煮るなら火を熾にし、沸かすなら生温くせず、そして、さつさと始末をつけることだ。

北支政權に對し、廿九軍に對し、南京政府に對して、一石二鳥、三鳥の手しかない。つまり北支を完全に安定し、事件の原因を根絶する外に解決の途はなくなつたのである。これなら、世界各国の御注文通り事件不擴大に止らない。事件不再發となるのだ。

X

一たび現状から退却すれば、あとは五十歩の退却、百歩の退却、千歩の退却、何處まで退却しても、キリがなくなる。支那が事件不擴大の意義を正解しない限り、事件擴大は必至だ。

だから、心ある親支外人は、支那に向つて「現状維持」で辛抱せよと忠告するのだ。小兒的統一意識、抗日意識の危険を戒めるのだ。支那がそれを反省しない限り、事件擴大に妄動しつゝあると斷する外はなくなる。

廬山會議で主戦論が大多數だ。支那の敵は支那である。支那の自惚れである。新たに共産黨の抗日病に感染したので病狀が悪化してゐる。

隱忍自重の限界

七月二十二日 陳謝しては攻撃し、協定しては侵犯する。七日の事變勃發から二週間は、

彼の戦備を強化させるために隱忍自重してやつたやうなものだ。松岡全權が聯盟で支那は組織ある國家でないといふ喝破した頃から見ると、支那は外觀上には大分變つたといへるが、その組織は、ただ抗日のみの組織だ。その國家意識の中味は抗日意識しかないのだ。

二百萬以上もある支那軍隊の首領連が外國に對する絶對行爲はいつの場合にも一國に限られ、二國以上に敵對するほど強大でない。この事實は英支紛争の時から繼續してゐると松岡全權が指摘した事實はそつくりそのまゝだ。

支那は抗日のためなら他國に國を賣り利權をくれることを何とも思はない。支那を脅かす如

何なる國家や思想とも共同戦線を張ることを何とも思はない。見るべし、支那人の國家意識なるものが、どんな正體の代物であるかを。

X

國民政府は、よもやと思つた日本の舉國一致に驚きながら、恐はくしながら、天津の現地交渉を頭から認めず、宋哲元が提議したことも認めない。しかも蔣介石は最後の關頭に立ち至れば我等のなすべき事はたゞ一つだなどと泣言を並べて各國に訴へる。最初から支那のなすつゝある事は、抗日の一つだつた。それ以外の何物もないのであつた。だからたゞ一つの御注文通りに日本を否應なく起ち上らせるのだ。

冀東、冀察兩政權を解消し、塘沽停戦協定、梅津・何應欽協定を廢棄しようといふのは支那のなさんとする第一歩だ。支那が地方的協定を否定するのは事件不擴大を否定するものであり、局地解決を否定するものであることを自覺した日本國民は強い。

戦時の特別議會

七月二十三日 準戦時でも戦時でもいい、とにかく、特別議會の意味も特別になる。

しかし開店休業の議會であつてはならぬ。不具の議會であつてはならぬ。目もあり、鼻もあり、口もあり、それが自然に認識の一致、感覺の一致、主張の一致となるところに、舉國一致の價値がある。

X

偶然だが、戦時議會はいつも解散後の特別議會であつた。日清戦争布告された後で開かれた第七議會も特別議會であつたし、日露の國交斷絶後に開かれた第廿議會も特別議會であつた。いづれも政争激化した際に戦争勃發したのだが、固より内政的カラクリがあつたのではない。

「内政は彌縫を事とし、外交は機宜を失し、臣等をして憂慮措く能はざらしむ」といふ議長河野廣中氏の彈劾的奉答文が衆議院を通過したのは、日露戦争より五十八日前だつたのであつ

た。それで解散された。三月十六日議會開會前の政友會大會では、「現内閣は内外の諸政共にその當を失し、憲政の前途甚だ憂慮すべきものあり」「然れども今や宣戰の詔勅すでに下り未會有の時局に際せり、本會は軍國の急須に顧み、從來の問題は姑くその時期に及んで決するに譲り」軍費負擔を辭せざるを決議し、憲政本黨も、外交と財政とに「警告」を與へつゝ大體に政府を支持したのである。

第七議會、第廿議會は、政治史にその開會の日と閉會の日とが記せられてゐるのみだ。前者は會期七日、後者は會期十日。

大正三年九月三日、世界大戰で開かれた第卅四議會の會期は十日であつたが、普通の臨時議會であつて軍國的風景は見られなかつた。大隈首相は「政府は決して舉國一致を強要するものではない。賛否は諸君の自由である。しかし」と第一黨の政友會を呑んで掛かつたが、政友會は虫を殺して政府案に替成した。その冬の通常議會には解散となつたのである。世界戰爭當時の氣分を知るべし。

X

今回の議會は北支事變を豫想しなかつたのも日清日露の特別議會とは違ふが、それだけ二周間の會期は長過ぎる知れぬ。

しかし議會は、かういふ時こそ質すべきは質し、論すべきことは論すべきだ。會期を欠伸と居眠りと共に空費する勿れ。

偽裝の友軍

七月二十七日 わが通信部隊に不法射撃を加へた郎坊の支那軍第百十三旅といふのは事變發生以來廿六日までは、全然、わが軍に敵對行爲をしたことがなかつた、ところがわが軍寡兵と見るや、俄然、態度を一變したのだといふ。

「一變した態度」が實はかれらの本性で、わが軍の友軍らしい態度は、實はかれらの偽裝であつたのである。

だが、佛の顔も三度、支那には宋襄の仁といふ言葉もある。この邊で皇軍の威力を徹底的に



發揮するのが、北支明朗化の捷徑ではないだらうか。

事變の飛沫はすぐとわが對支貿易の上に影響して來た。この飛沫たるや、實は南京政府が報復的にやり出したことで、斷じて偶然な飛沫ではない。外貨引換への停止や、糧食輸出許可制の實施や、支那新聞に對する日本商品の廣告掲載禁止命令等々、飽くまで反日、排日政策の一貫を期する。

わが方の事件不擴大方針に對し、南京政府は徹頭徹尾、事態擴大の方針で臨んでゐる。今となつては、日本の對支方針も極めて局限されて來た譯だ。

x

世界教育會議の代表が續々來朝してゐる。北支事變を楯に支那は同會議に代表を送らぬといふが、あらゆる國際會議を排日宣傳の機關と心得てゐる支那の不參加は、却つて同會議に好都合だらう。各國教育界の代表に、ありのままの日本をみてもらふのは、眞實の意味における東洋平和の確立に、大きな役割を勤めると期待す。

各相の演説

七月二十八日 夏尙寒き議會の嚴肅感を期待したものは失望したかも知れない。近衛首相の演説もあまり冴えないことを御曹司が裏書した。

首相、學國一致の支援を「感謝」する。小久保老は近衛内閣と學國一致とを結びつけたが、しかし近衛内閣だからかくの如く學國一致になつたわけでもない。政府の鼓吹を待たず、時局重大感を國民がもつてゐる。だから各大臣の演説が平々淡々として事務報告的なのも、あれでいいと思ふ。無暗に肩胛怒らして激越な言葉を發するに及ばない。

首相の「對立抗爭の摩擦があつては到底所期の目的を達し難いは勿論、延いては外侮りを招く」とあるなど、今になつては少し讎詰の臭ひがする。平時の對立抗爭がビタリと止つて國難意識が燃え立つ、かういふ機會に改革すべきものは進んで改革しようといふ意味はわかるが、それだけお粗末な俄普請であつてはなるまい。

×
政府の新聲明を見てもすでに現地の解決、事態の不擴大は困難となつたのである。かう度々ベテンにかけられ、蠅にでもなめられたつもりでをれまい。

「不祥事發生の根因を芟除するにあつて善良なる民衆を敵視するものにあらず」とあるが、支那人愛すべし、支那軍人信すべからずといふことが、いよ／＼明かになつた。

帝國は何等領土的企圖を有せず、かつ列國の權益保護には最善の努力を惜しまざるは、今度の聲明を待たない。滿洲事變では聯盟の無力を認識したが、上海事變ではいよ／＼支那の兵力の虚勢を認識せねばならぬのか。

第二十九軍攻撃

七月廿九日 獅子、南京虫をうつに全力を用ふといはうか。空に陸に、第廿九軍の主力に攻撃を加へる。

尻尾を捲いて逃げながら、報告には相變らず、日本軍大敗、我軍は豫定の陣地についたとでもかき立てるに相違ない。

今まで幾らあちこちで膺懲を加へても、支那紙を見ればいつも勝つた／＼と大勝祝賀提灯行列でもやりかねないやうな調子。知らぬが佛の支那國民は、日本軍は弱いくせに強い支那に手向ふのは不思議なものだとはかり思つてゐる。だから「懲りずに」日本軍を攻撃するのではなく、大いに武力を示すつもりなんだ。

どうしても支那四億五千の民衆の目に、動きのとれないものを見せる外ないのだ。

支那の軍記を読んで氣づくのは旌旗天を捲ふとかいふ形容澤山で、それで勝敗がきまつてしまふことだ。つまり鳴物入で威勢のいゝ方が勝つのだ。支那が空軍に力を入れ、とにかく千台近くの飛行機を持つてるのもこの旌旗天を捲ふといつた威嚇用の効果百パーセントだからだと思はれる。

×

上海事變には、米人の飛行家が支那軍に義勇兵となつてかなり活躍し、最後にわが空軍に射

落されてしまつたが、今度とも支那の空軍侮るべからざるは、この義勇兵といふ奴である。中央、冀察が一體化した以上は、やはり壯烈な空中戦も豫想して置かねばなるまい。

尤も上海事變には、外の支那飛行機は日本空軍を逃げ廻つて、しまひには何處かに穴を掘つてもぐり込んでしまつた。さすがは支那軍人の發明した空中戦の逃げ道だと感心させられる。何しろ幾ら多くても、かけがへのない大事な飛行機だから、めつたに破壊されては堪まらぬからだ。

x

何やらの起請證文みたいなのを千枚萬枚取つたとて何になる。とは思つたが、日本はそれだけ愚直を守つて、支那軍閥の巧言令色に引きずられ今日に至つたのである。最後の寛大な通告に對する彼の回答は、お手のもの、言葉ではなく、郎坊、廣安の兩事件であつた。もうこれ以上の隱忍を許さざる事態となつたのである。

英米動く。ソ聯佛國も動く。事態不擴大に重大警告を發するとある。御言葉ではあるが、日本がどんな目にあつても自衛的行動を執る勿れとの御趣意ではあるまい。

軍閥の私兵

七月三十日 日本人の辭書には、戦争と勝利とは同義語だから、決して勝利に酔はない、却つて勝利にさめる。勝てば勝つほど、兜の緒を引きしめる。

x

支那の民衆を愛する故に、支那軍閥を憎む。誰かが「愛の鞭」を加へるといつたが、支那軍閥は愛に値する何物もない。彼輩は、支那の良民を虐げる毒虫である。毒虫をひねりつぶすのは、平和に憧れる支那の民衆に對する功德である。

一體、支那がひどい苦面をして二百萬の常備軍を養ふのは、支那民衆の誰が頼んだのであるか。軍閥が勝手につくつた兵隊である。その兵たるや「乞食にならうか、兵隊にならうか」といつた筈にも棒にもかゝらぬ破落戸の徒輩をかき集めたのは遠い昔のことでない。今でもせい／＼月給の一弗か二弗の傭兵だ。幾らか素質がよくなつたといつても知れたもので「泥棒になら

うか、兵隊にならうか」といつた少々骨つばい手合が多くなつたと見るべし。
その大將たるや、抗日意識が民衆に熾になればなるほど、軍費が集まり易い。兵隊には當てがひ扶持で、近代装備もやらぬことはないが、その百倍も千倍も懐ろへ捲ち込む藝にかけては手に入つたもの、抗日の聲いよいよ高くして、かれ等の外國銀行預金帳の数字はいよいよ太る。軍費が一番逃げ足が早い。

殷 汝 耕 君

八月一日 冀東政府長官の殷 耕君は無事だつたが、廿九軍敗殘兵が紛れ込んだとはいへ保安隊といふ飼犬に噛まれた要人達も氣の毒なもの。邦人の遭難も少なからぬ様子、痛心に堪へぬ。

冀東には停戰協定まで、舊軍閥の兵隊が卅餘萬も駐屯して各縣を食ひあらしたもので、それが冀東政府になつて約一萬五千の保安隊が置かれ、良民は大いに助かつてゐたのだ。

何しろ素質が悪いのだから、日本の監視によつて手も足も出ず、苦しがつてゐたところへ、今度のドサクサで流言蜚語といふやつがかれ等を驅り立てたことは想像に難くない。片づけるには却つていゝ機會だつた。

社大黨の龜井氏の質問に、「封建國防は資本主義國防に敗れた、資本主義國防は全體主義國防に敗れつゝある」とか「ナチスの生産力擴大されて物價統制は極めて嚴格であり、解雇がなく
なり、労働の餘暇が出て、娯樂を楽しんでゐる」とか、ナチス禮讚で一貫してゐる。氏は冒頭に社大黨を代表してといつてゐるが、社大黨の政策はこの演説に代表されてゐるだらうか。

政府の熟練工大量養成は見合せとなつたが、東大の富塚教授は、わが重工業の弱點を指摘し、數年前までドイツ第一の飛行機製作工場の従業員は千人内外から一萬人内外となつたが、日本の第一流飛行機会社は技師數十人、米國の工業大學百五十、ボストンの工科大學生三百名、東大の航空學生卅名、こんなことちや駄目だから總軍事豫算の數パーセントを工業教育に

さけと大に論じてゐる。

殊に工業教員を全國學校に配置し、軍事教練と併行して工業教育を普及せよといふのが時節柄傾聴に値する。

米國と中立法

八月二日 英外相は、事態の特殊事情と日米兩國が聯盟國でないといふ二つの理由から、未だどの政府も事件を聯盟へ持ち出さないと声明した。日本が聯盟國でないからとて聯盟の問題にされないのではない。

聯盟國と非聯盟國との紛争をも、聯盟は取り上げ得るのだが、支那はまだ訴へる模様もなく、蔣の強がりも國民の手前だと佛紙圖星をさす。

廣田外相は、アメリカとしては事件をはつきりさせることを差控へてゐる。またイギリスについては何等の情報がないと議會で答へたが、外務省では「時節柄」餘ほど暇と見えて、堀内

次官の排斥運動が再燃し、省内の「相刻對立」を續けてゐる。暑い事だ。

×

米國ではやはり中立法適用を主張する論者が一番「強硬」なのである。國務省にこれ以上の強硬な態度をとらせようといふ輿論の壓力は見られない。

いふまでもなく國務省の「冷靜」は米國民の冷靜による。スチムソン氏の對日警告もこの個人的意見や意思よりも、當時の囂々たる國民的の聲が國務省を鞭撻したからであつた。

桃栗三年柿八年、米國民の極東に對する見識も成長した。米國民は「極東の危機」よりも第一の歐洲大戰を恐れ、その自由主義者は日本がアジア大陸に没頭して、米國を凝視しないことを好い工合だと考へてゐる。

香月司令官放送

八月三日

香月司令官の放送した如く、國民は第一線の將士をして聊かも後顧の憂あら

しめてはならぬ。その感謝の念は一時性の情熱であつてはならぬ。

ナポレオンさへ、絶えず國民の愛國主義と接觸を保つに苦心を拂ひ、國民徴兵に對しても代人を認めたり、戦費の調達には直接税を避けたりして、細かいところに氣を配つたものだ。そこになると、日本の國民は理想的である。議會の光景は四、五十年前と殆ど違はないのだ。

たゞ違つたといへば、とにかく社大黨といふ第三黨が存在し、過日の龜井氏の代表演説は、黨の代議士會で問題になつたのだ、また「赤松克麿氏の明日の政治大勢を支配するものは斷じて社會主義勢力ではない、社會主義勢力といふものは國體觀念を没却し、民族精神を忘れ……さういふものは今日の民族主義の時代には許されない」といつた調子の演説に「議場騒然」となるなどは、やはり昭和十二年の議會だと思はせる。

X

約三億圓の新追加豫算計上の段取となり、増税方針が傳へられて株式の暴落となる。まだく浮調子である

明治廿九年、日清戦役の増税二千六百萬圓、卅一年の増税約四千萬圓、卅一年團匪事件の増

税約二千百萬圓、卅七年日露戦争の増税約七千五百萬圓、八ヶ年間に一億六千萬圓の大増税を國民は忍んだ。當時國債は五億六千四百萬圓に過ぎなかつた。總額今日の國民經濟力に比べて見るがよい。血の出るやうな増税だ。國民の覺悟がそれほど眞劍だつた。

もう戦争で儲かりまつかの時代ではあるまい。

發表された臨時増税一億二百萬圓、直接税主義は當然である。直接税はかういふ時の「非常準備」なのだ。

通 州 事 件

八月四日 北支事變は、冀察政權に對する日本のお人よしの認識を是正させたが、それでもまだ冀東政權の下にある廿二縣だけは大丈夫と信じ切つてゐたのである。北支がいかに亂れても、殷汝耕氏を信用する日本は、その保安隊をも信用しきつてゐたのである。

だから、わが居留民は平時内地人約百十名、朝鮮人約百八十名だつたのが事變以來、各地方

よりの避難者で九十名も増加し、しかしてわが軍は一分合財で僅に百名に過ぎなかつた。

この信用は、豚に與へた眞珠だつたことは、争ふべくもない。過を見て仁を知るとは支那人の言葉だが、日本人がいかに「愚直」であり、誠實であり、やゝもすれば姦惡の徒にベテンに掛けられるかを、端的に語つたのが、通州事件である。

陸相の語つた如く、「本事件は殷汝耕の最も信頼」した防共總隊が惹起した兵變である。しかもまた「第廿九軍の計畫的暴擧」である。平和を樂しむ「わが居留民に對し言語に絶する暴虐な行動を取てしその大部分を城内外に拉致して慘殺」したのである。わが特務機關の細木機關長以下「不意の襲撃」を受け「衆寡敵せず大部分は壯烈な戦死を遂げるに至つた」のである。

X

支那軍隊は、古來傭兵制度の軍隊における最惡質の標本だ。支那の排泄する最も臭氣紛々たる代物なのだ。支那軍人の倫理學は人の睡眠中に襲撃する南京虫の倫理學である。人を襲ひさへすれば勝つたと思ふのである。

言葉を解しない外人は、苦力のもの柔かな調子、憐れみを乞ふ表情、ペコ／＼する卑屈の態度

を見て、尊敬されてゐる様に感ずるが、彼は其傍らにあつて仲間に聽かせる爲に、あらん限りの侮辱の言葉の奔流を浴びせかけてゐるのだと或る支那通の外人はいつたが、その通りだと思ふ。米國は北平大使館や天津總領事館の公電によつて、極東の情勢を正しく認識してゐる。日本の犠牲は大きい。けれども、この尊い犠牲によつて、世界は日本の行動を認めるのである。

蔡廷楷

八月六日 ウッドヘッド氏の國民政府を警めたのは、もう手遅れかも知れない。蔣介石をのせた虎はすでに走り出したのである。

「弱き支那の強き人」蔣介石が無智なる故に強い輿論に對しては極めて弱いことを暴露しつつあること、ウ氏の痛論した通りだ。閻錫山や白崇禧等の巨頭會議で自重論の優勢を望みながらも、自分の口からは弱音を吐けない弱味があるのだ。

上海事變で世界的「英雄」になつたつもの舊十九路軍長蔡廷楷が南京へやつてくる。蔣介

石が大いに「歓迎」するだらう。

蔡廷楷は上海事變の後で共産軍討伐のため蒋介石から福建省へやられたが、木乃伊取りが木乃伊となつて香港から米國へ逃げたところ大持てに持て、商業會議所主催の歓迎會が到る所に催され、得意満面だつた。

桑港でも支那人の歓迎會があつて、大變な人氣なので支那領事館員も知らぬ振りが出來ず、二名出席したことが知れて、蒋介石が電報で休職を命じてしまつた。今度の握手ではどんなお世辭を並べるやら。

廣西派の白崇禧が八年振りで蒋介石と會見をしたことは成るほど劇的である。どつちも腹の一物が見物に見透かされる。

x

「北支の一角に起つた小さな問題」といつた賀屋藏相の「失言」が問題になる。馬を吐らせれば馬子も一人前とやらの感なきにしもあらず。五億圓の北支事件費は當座の小出しといふ意味にとれば、そんなに苦情はあるまい。

卅億三千八百萬圓の馬場財政を「老犬豫算」といつた昨日は昨日、卅四億圓の結城、賀屋財政に文句もない今日は今日だが、事態悪化することあらば臨時議會に出る追加豫算が決して賀屋氏の官僚的小心を示す氣遣ひはあるまい。大丈夫だ。

弱者の不正義

八月七日 「世界教育會議で國際危機の克服」が叫ばれ、「世界を支配するものは劍でなく愛である」と熱論された。

教育を通じて國際的善意を涵養する會議の建前として當然だ。お寺で木魚の音を聞かれるやうなものと思はれる。

近衛内閣が今尙局地解決事件不擴大を口にするのは、現實の情勢に眼をふさぐのではない。蒋介石が「和平解決絶対不可」を叫び「全面的對日決戦」を叫ぶのに對し、あくまで彼の誤謬を正さんとする毅然たる態度こそ、東洋の安定力たる日本精神の現れでなければならぬ。

支那は弱者なる故に不正義なのでない。弱者たるを自覚しないから不正義なのだ。支那をして不正義を自覚させる道は弱者たるを自覚させることだ。抗日侮日によつて日本に兜を脱がせることの不可能なるを自覚させることだ。「斷乎不動の決意」をもつて「東洋永遠平和の基礎を確立せんことを期すべし」といふ衆議院の決議には日本國民の正義感が籠つてゐる。「事變」も一つの國民的試験である。

×

ブリュッヘル將軍が外蒙に潜入して對日工作をやつてゐるとの報は、ありさうなことだが素人臭い見方だ。彼は十六年前に外蒙赤化に腕を揮ひ、ウランゲルン軍を全滅して勇名を馳せ、更に十三年前ガロンと變名し、ポローチンと共に廣東を舞台として活躍しポローチンは政治工作擔當、彼は軍事工作を擔當し、黄埔軍官學校を起した。この卒業生が蔣介石の旗本七萬人の幹部となつた。彼は當時自らその北伐軍を統率したのだが、犬骨折つて鷹の餌食、蔣介石は容共政策を弊履の如く放棄し、ガロン將軍は、ポローチンと共に悄然として支那を引揚げたの

だ。今度こそ、昔の失敗を償ひ、失はれたるスターリンの信用をとり返す氣でやつてるかも知れない。

自由の限度

八月八日 「希望付決議」の議會は終了した。日本國民の「常識」は如何なる場合でも國家を誤るやうな危険がないことを、この議會は完全に示し、情熱家をも満足させた。平時はどんなに對立抗争しても、いざといへば何の苦もなく舉國一致する。

何人も厭々ながら引ずられたのでない。だからそんなに案じたものでないといふ印象を與へたのであつた。

國民生活の安定、國民負擔の均衡といふことが、各派から「強調」といふほどでなくとも忘却されなかつた。大抵はいつて見るだけのものかも知れぬが、いつて見るのが無意義ではな

X

「政府はナチスの計畫に誘惑を感じてゐると思ふ」といふ議論もあつたが、豫算膨脹も不可避、國際收支の不均衡も不可避、公債消化困難も不可避、物價騰貴も不可、何もかも不可避といふことになるよりも、たつた一つだけでも多數國民の困る不可避を除いた方がよいといふ結論に導かれる。「イタリにエチオピア成金なし」といはれ、軍需工業に對する重課の議論が各派から主張されたのも當然と思はれた。

まだ政府の答辯は、すべてに自治的統制の色彩を失はぬ程度のお手柔かさを感じしめたが、しかも好むと好まざるとに拘らずゆく所までゆく外はないことを悟らせるものがあつた。たゞ問題はそれが戰時體制に止まるや否やといふ點だ。

「日清、日露に制定された地租その他の税目が恒久化された」ことについて無産黨から警告されたが、ひとり税制の問題のみであるまい。この場合能力ある國民がうんと非常時の犠牲を忍び、道徳的自制を加へることが、政治的自由を確保する唯一の道なるを覺悟すべきである。自制の限度が自由の限度と知るべし。

悔れぬ支那兵

八月九日 支那兵も精神的に改まつて來た。なか／＼勇敢に戦つた支那兵もあると某部隊長は語つた。支那兵悔るべからずだが、その新しい軍事的教育が徹底しないのも事實である。

支那の近代的進歩を知らずに支那を語るは、非常な誤謬に陥ることは争へないが、支那の新らしさに、あまりに重點を置く見方も考へ物である。支那は最も陳腐な問題であつて、最も新しい問題である。

X

支那には、排日の歴史、排日の地理、排日の常識を教へ込まれた五千萬人の學生群、兒童群があると同時に、三千万人から五千万人の阿片吸飲者があり、また「吃了飯了麼」といふことを日常の挨拶とし、何よりも飲食を樂み、平和を愛し、昔ながらの帝力何んぞわれにあらん哉

といった風に政治に無關心な多数の民衆があると同時に、やゝもすれば排外暴動、外人迫害の點火し易い社會的性質がある。一筋縄ではゆかない支那である。

數々の排外暴動、外人迫害の事件はいふに及ばず、基督教といふ名をもつて支那全土にわたり二千萬人を殺した長髮賊の亂があつたことを思へば、支那の共産黨なるものが、いかに支那的のものであるかを察するに難くない。

X

支那八萬の學生軍が最も惡質な排日、抗日の指導者なることは、方針の狂つた教育の危險性を示す實物教訓だと思ふ。通州虐殺の兵を操つたのも學生だし、天津便衣隊にも多数の學生がつた。今や蔣介石を死物狂ひの抗日戦へ驅り立てる學生の力も見逃せない。

凡そ健全な教育は、人の精神力を鍛練し、獨立の思索、冷靜の批判をなすに足る弾力を具へしめるにあつて、盲目的、狂熱的な排外意識、國家意識の鼓吹の如きは、國家を誤る教育といはねばならぬ。

世界教育會議

八月十日 七日に終つた第七回世界教育會議が先づ成功といへるのは何よりだ。それから一千の外客に對し好感を興へたのは、オリムピックの豫習的意義においても喜ぶべきである。英國代表の一人が「時局のために不首尾に終るかと思はれ、心配してゐた」といひ、「日本人の親切と謙讓」とに感激したといつたのは、滿更お世辭とも思へない。

殊に北支事變に對し「日本人の冷靜な態度を賞讃」したのは悪い氣持がしない。實際、日本國民は時局の重大性を認識すればするほど、外人に好戰國民なる如く誤解させるやうな眞似はしないのだ。

「日本の欲する所は領土にあらずして日支の提携である」といふ町田總裁の議會における演説は最もよく國民の氣持を代表してゐる。しかも舉國一致に陰翳を感じしめるやうな懸念はない。やむを得ざる事變の擴大性に對しても十分の覺悟をもつてゐる。

献金などに湧き立つ愛國心の表徴は、國民的冷靜と矛盾しないのである。教育會議で米國代表のコロムビア大學教授が戦争は人間の根本的性質上から不可避のものでないことを高調し、日本代表からは、一二氏の日本は東洋平和のため不正を懲罰するのだといった意見があり、共產主義の防止についても言及して、幾らか會議の單調を破つた。

米國代表によれば、米國における四百人の心理學者に對し、人間には戦争を不可避にする根絶し難き本能的性質ありやとの質問を發したのに對し、否と答へたものが九十二パーセント、然りと答へたものは僅かに三パーセントに過ぎなかつたとあり、まだ人間の争鬭本能があることから軍備や戦争に飛躍して人間の性質を非難するわけにゆかないといひ、國際平和の可能を心理學的、社會學的に證明せんと試みだが、しかも歐米の高度軍備國を辯護するやうな偏見を同代表は示さなかつた。

世界においても最も好戦國民は支那だ、支那人の排外心理は、排外教育によつて上塗された。「支那文化の本質的平和主義はアジアにおける大なる安定力である」といつたスチムソン流

の偏見は、支那が戦争に弱いこと、戦争の原因をつくることゝの區別を忘れたものだ。かゝる平和主義が却つて戦争主義の火に油を注ぐことになるのは、支那の現實が語るのである。

北支の現地解決方針

八月十一日 上海のテロ事件あり、支那は「開戦の準備を進めてゐる」と杉山陸相の語る如き北支の情勢あり、もはや「北支事變の現地解決を見た上は、日支國交の根本的調整のため外交交渉を開始する用意がある」と近衛首相が議會で述べた當時とは、比較にならぬほど時局の重大性を加へたことを何人も看取する。

近衛首相の「微恙」も毎度のことで氣にもならぬが、首相が腹を痛めてゐるよりも、頭を痛めてゐることが非常なものだらうと思はれる。議會は全體主義的一色に塗りつぶされたといはれるほど、歴史的な學國一致性を再現したが、それは國民が承認する、肝腎の内閣がしつかりせず、足許が危なかしいやうな心細い印象を與へては困るのだ。敢て政府が獨喜的權威をふり

かざすことを注文せぬが、非常時に非常時らしき政治的手腕が揮へなくては荷がかち過ぎる結論となる。

X

政友議員總會で島田代行委員の挨拶に「我黨は事變議會の性質に鑑み殆ど無條件に朝野協力の建前を取つたのであるが、來るべき通常議會においては内閣の方針政策を具體的に検討する」とある。

近衛内閣が有力にせよ、無力にせよ、革新は行はれなければならぬ。たゞその革新の方向と性質については、日本の國民性を認識し、日本の國體と憲法とを尊重し、日本の政治のよき特殊性を把握して決定されねばならぬ。

X

近衛内閣をして、議會を見縊らしめず、國民を輕視せしめず、嚴然たるその監視の下にあることを意識せしめることは、決してその重大任務遂行のハンディキャップとなるのではないのである。獨裁的政治の危険性は、その「失敗」に對しても無責任なる點にあるのである。

後顧の憂を除く

八月十二日 出征軍人に「後顧の憂ひなからしむる」ために、その家族の生活上に十分の國家的、社會的關心をもたねばならぬことは勿論であるが、それは極めて狭い意義における出征軍人の憂ひを除くに過ぎない。

政治に對する全幅的の信頼をもたせることこそ、後顧の憂ひを除く最大のもので、この點國民の覺悟を説く政府の御手許拜見といひたいことが絶無でない。

政府の責任は最高政治的方面のみでなく行政の末梢神經にまで、國民の愛國的精神とピツタリ適應し、國民の覺悟と官吏の覺悟とに寸分の隙間があるべきでない。非常時とは、官權が民權を押へつけることでなく、官權民權の呼吸が合ふことを要するのである。

X

そこで、行政機構の改革、人事行政の刷新といふことが、何よりも重要な問題となる。馬場

内相は、現行文官任用令があまりに高文試験至上主義であるのみならず、昭和七年の身分保障令によつて獨善傾向が強化され、自由任用、特別任用、詮衡任用の範圍が狭いことを感じてゐると傳へられるが、馬場氏さへさう感ずるのだから、官界の空氣を大抵知るべし。

清水澄博士は、現行官吏制度が、次官、局長、課長、係長と、必ず官等や俸給に階級があるため、適材適處でない不合理の更迭が行はれる弊を指摘し、高等官の階級が多過ぎるといひ、法科萬能の弊は、現行文官任用令の運用がうまく行かないからだと論じてゐるが、官吏の能率向上の問題は、非常時において何より解決を急ぐべき理由を感ずるのである。

抗日商賣

八月十三日 目と鼻のスペイン問題にも、聯盟に休業させて不干渉委員會をつくつた英國である。いくら支那に泣きつかれても東洋に干涉政策を執るやうな目先の見えぬ管がない。それだけこの機會に賣れるだけの恩を賣り、買へるだけの利權を買ふことに抜け目がない

のもいふに及ばない。

支那の歐米依存病は膏肓に入つてゐるが、要人としては、いくら歐米に甘い汁を吸はせてもそれが抗日といふ看板を掛けてゐる限り、一向賣國行爲でないのだし、愛國者として懷中が温まる仕事に臆病な彼等でない。つまり日本だけが帝國主義とやらであり、歐米はみな支那のために損得離れて親切をつくしてゐるといふのが彼等の論理である。

最近の對歐借款は、孔祥熙の宣傳が多いが英國で廣梅鐵道借款三百萬磅、浦口襄陽鐵道借款四百萬磅計七百萬磅が成立し、フランス銀行團との間に二億フランクの借款成立とパリ電報にある。いづれ飛行機買入費などになる。孔祥熙はさらにドイツでも活躍中だ。

x

武者小路大使は獨支の間に商談がある武器供給問題につき帝國政府の見解を披瀝したとあるが、孔祥熙先生得意の長廣舌で獨支經濟提携の緊密化、相互貿易の増進などとシヤハト博士に持ちかけたのだ。

ドイツは近來メキ／＼對支輸出に躍進し、昨年は前年に比し四割五分三厘増しの一億五千三

百萬元に上つた。またドイツの製鐵廠は昨年中第二回浙贛鐵道材料借款八百萬元、湘黔鐵道及び黃河鐵橋材料借款四千萬元を引受けたといふ調子で、苦しい中から支那に目をつけてゐるが、この際ドイツとして變なことはやるべき義理合でない。

上海とは何ぞ

八月十四日 遂に「第二上海事變」となる。昭和七年一月十八日、日蓮宗僧侶一行五名が上海租界延長道路區域に沿ふ道路で抗日義勇軍といふ暴徒に襲はれ一名死亡、三名重傷し、それがキツカケとなつて上海事變となり、同年五月、停戰協定で梟がついてから滿五年三ヶ月あまりだ。

上海事變の起るや英米公使は日本軍の軍事行動は正當防衛的手段の範圍を超え必要以上の處置に出たとか、列國の權益を有する特殊性質の共同租界を日本が軍事行動の根據地にしたため戰禍を及ぼし、列國居留民の生命財産を危殆に陥れたとか、認識不足の抗議をしたのを皮切り

に外交關係がうるさかつた。

當時、我陸戰隊は將兵僅かに二千七百を以て、三萬有余の近代裝備を有する十九路軍や便衣隊を相手にする勝手の知らない市街戰だからかなり厄介だったが、日本が腰を入れてやり出したから、破竹の勢ひで支那軍を上海を距る二十キロの線外に驅逐した。

X

最初から黑白判然してゐる大山大尉事件に對し、海軍當局は冷靜自重、善後の措置を講ぜんとしたに拘らず、支那は停戰協定に反し五萬の大兵をもつて上海包圍の態度をとり、停戰區域に戰備を整へ我警備の手薄と見て不法攻撃を加へたのだ。

事ここに至つて、程度を超える「隱忍自重」はますます事態を悪化させるだけだ、「支那政府に嚴重な交渉をなすと共に居留民の保護については萬全の措置を講ずる」と翰長談にあるが、「萬全の措置」にぐづつく時であるまゝ。

上海とは何ぞや、何ゆゑに上海が、その黃浦江といふ揚子江の支流にあるのか、何ゆゑにもつと海に近い、四通八達の便利なところへ、この都が築かれなかつたのか。つまり「條約」の

つくつた都であるからだ、支那人が見捨てた土地に、近代的都市をつくつたのは、國家の権力と治安の維持とである。支那人は、その國家を信じないから上海を膨脹させたのだ。

支那の飛行機

八月十五日　どうせ蟻螂の斧に過ぎぬが、支那の飛行機そのものは外國製で侮れない性能があるんだ。乗手は支那人か外國人か、攻撃してくるのはいづれ腕に覚えのあるやつだらう。北支では、敵機が後へくと逃げかくれるので、一向空中戦はないが、上海では航空救國などといつて、金を出させた浙江財閥の見てゐる手前もある。さう臆病な眞似も出来ないわけだ。

昨年、蔣介石の五十年誕生祝には全國から軍用飛行機費として一千ドルからの献金があつたし、日本軍恐るゝに足らずといつた思ひ上りは、この飛行機を空頼みにしてゐるんだ。

X

いつか北平で、各大學から抗日軍費を募り錢兜七千五百個を張學良に寄贈したはいゝが、その錢兜を受取つて見るとばかに軽い。軽いはずでボール紙にブリキを張つたものだつたといふ話もある。飛行機だつて、蝶々とんぼも鳥のうちで、單に飛べるといつた程度の代物もかなりあるが、五十機、百機は相當のものもある。

乗手とて、四億余萬人のうちから五十人や百人くらゐ一人前の飛行將校も出るだらうが、たゞ自國で飛行機がつくれぬ、飛行機のみならず、一切の軍需品も、軍事費も、歐米依存だ。地大物博などと自慢したつて、食糧初め自給できない始末なんだ。

X

そのくせ、日本は軍事的に強くても經濟的に弱いなどと生兵法で口幅つたことをいふ。自大といふ字をくつつけると臭といふ字になる、臭いもの身知らず、少くとも國民政府要人の自大意識はグアンと腦天から一撃を加へなくては癒りツこはないのだ。

凡そ日本を知らないことは支那人の如きはない。國民政府は日本に將校を送つて軍事を學ばせ數千の留學生を送つて學問させるが、日本には受賣以外何物もないと思つてゐる。日本のみ

に強く當る以夷制夷意識も、日本の國が小さいとか、日本の文化に獨創性がないとか輕蔑するからだ。

維新以來、李鴻章はかくの如くにして失敗し、袁世凱はかくの如くにして失敗し、張作霖はかくの如くにして失敗した。蔣介石にして悟らざるばその運命も知るべきのみ。

九國條約とは

八月十六日 狂人に刃物、支那軍に爆撃機だ。共同租界に死者四百九十五名、負傷者六百名、佛租界に死者四百四十五名、負傷者八百二十一名、これが支那機の晴業、放れ業、蔣介石のいはゆる「壓倒的勝利」である。

盲滅法な非戦闘員に對する「粉碎作戰」の記録である。生酔の本性違はざる如く、血迷つても支那軍のこれが實體である。

今や全世界の眼は「新らしき支那」の血管に野獸的な血が奔流するのを見たのである。全世界

の耳は、文明の人道と條約と法規とを蹂躪する、怪物の血に渴して吼ゆる音を聞いたのである。

これを排日抗日の飛ばつちりを受けたと思ふ如きは隣家を目ざした狂人にやられたのだから飛んだ迷惑だと思ふの類だ。

x

支那の排日抗日は、東亞の警察力と、安定力を目の敵とするだ。日本の壓力があればこそ、支那の排外運動はブス／＼燻つてるのみで左程に燃え上らない。支那の現状維持のために最も骨折つてゐるのは日本であつて、日本を離れて支那の經濟的發達も、平和的進歩も考へられな

いことを痛切に教へたのが國民政府の暴舉である。

九國條約とは、狂人を監禁する代りに、狂人の自由を尊重し、狂人の生命財産を保護し、これに對して各國が決して「懲罰」的出手しをせぬことを約束した自繩自縛の條約である。どんなに他國の利益を侵害し、他國に惡事を働いても、弱者として大目に見られ、尺寸の領土も失ふ氣遣ひがないことを支那に保證した條約である。

これを有難いとも何とも思はず、却つて手出しの出来ない不自由な強者・優者に對して、優越を感じ、侮辱を加へるのが、ワシントン會議以後の支那だ。

X

今こそ、支那の現實を認識して、徒らに、抽象的の原則をならべ、條約の尊重とか何とかいつてゐる過誤を訂正せねばならないのだ。しかも日本が、「毫末も領土的意圖なき」は勿論である。

王師赫として怒れば、抗州、廣徳の空軍根據地を木ツ葉微塵にした。上海で日本軍の高射砲彈が支那爆撃機の發射機に命中し、携帶した爆彈が「自然に落ちた」など、國民政府は駄洒落みたいに語るに落ちた。

海軍航空隊

八月十七日 暴風雨について何處とも知れぬ天の一方から現れた海軍航空隊、堂々たる編

隊をもつて南京、南昌まで遠征し、敵の空軍根據地を粉碎したのは、痛快いはん方なし。鳴かず蜚はず、一とたび沈黙を破れば世界を驚かす壯舉は朝飯前だ。

三十余台の編隊が上海陸戦隊に挑戦を試みるとは敵ながらも相當なものだ。

いふまでもなく、すでに制空權は完全にわが軍にあり、さう一遍に羽をもぎ取つてしまはなくてもよい。これから五機十機、風潰しにやるばかりである。

X

フランス駐屯軍がフランス租界上の支那機を射撃したのは面白い、これが最も効果的な抗議だ。英、米、佛大使の嚴重抗議なんかに對しては、恐縮を装ひ、ベラ／＼プロペラの如く廻る舌で泣き言を並べ、蔭でその舌を出す支那である。

駐米支那大使が、日本は共同租界と黃浦江とを軍事根據地としてゐるので在留外人の遭難となつたと詭辯を弄し、多數の死者は支那デモクラシー擁護の犠牲だなど、宣傳してゐる。

そのせむか、米國の有力紙が支那の挑戦を認めつゝ、日本は上海附近の外國權益が危險に陥るのを防止しなかつたなどいふ。まだ／＼認識不足は遺憾である。

支那のデモクラシー呼ばりは臍茶だが、これが案外、米國人の耳には入り易いんだ。

米國人に迷信ありとすれば、共和國といふ名稱に對する迷信である。支那はなるほど共和國だが、これに同類意識をもつ如きは、米國人自らを辱しむるもので、何一つ民衆的背景のない大變な共和國だ。

x

壯烈、鬼神を泣かしむる空軍の戦闘經過である、敵機の撃墜・爆破七十余機に對し、わが損害八機、最小の犠牲だが、豚に與へた眞珠の哀惜感が深い。

また南京飛行場の空爆だ。戦争は敵の戦闘力を殺ぎ、戦闘志を奪ふにあり、だから首都が第一目標となる。

臨時議會召集

八月十八日 九月三日召集と決つた臨時議會を第一臨時議會といひたい。必要に應じ、第

二、第三の臨時議會を通常議會前に召集すべきである。

従來の政府はとかく臨時議會の必要を成るべく認めながらない癖がついてゐるのである。政黨内閣でさへ、議會をうるさがる傾向があつたし、議會回避は、官僚内閣に限らないのであつた。議會をうるさがらず、政治をやつてゆく心構へを立憲的といふ。この心構へは戦時、非常時でも無用有害でないのみでなく、却つて舉國一致性の強味を發揮するゆゑである。

x

北支事變の擴大、上海事變の勃發は時局の性質を一變させたといつてもよい。従つて巨額の事件費を要すると共に、いよ／＼本格的戦時體制へ移る順序となる。

しかもその統制立法は成るべく官僚獨裁的色彩をさくべきであり、高度の授權立法の如きは

成るほど、一遍で埒が明くけれど、戦略・戦術などと違つて財政經濟上の大事を決めるのに一々議會を開いてをれないといふ性質のものでない。

現在の議會制度は召集から、兩院が成立して議事を始めるまでに手数がかり過ぎる。これを改正し、もつと手取早く、無造作に、恰も何かの委員會でも開くやうな調子に臨時議會を開くことにする必要がある。

かく議會の形式主義を打破し、實質的の議事本位に改正することによつて、議會は政府の足手纏ひみたやうに思はれなくなる。

X

政治は前途の見透しを必要とするが、やたらに突進性、飛躍性を示すことが、必ずしも能率的でない。日本國民は、事變の永續性とそれによる必然の財政經濟體制の移行に對して、最も自由に承認を與へる用意があるのだ。

支那機の上海空爆

八月十九日 支那機が盲滅法に租界を空爆したんぢやない。一定の外交的狙ひどころがあつたことは、最初から想像されたが、果せるかな、英米の關心は高まり、兩國の上海派兵となる。

日本は數十年來、外國の顔色を読み、外國の人氣を氣にすることばかりを外交の奥義と心得たやうなものだつたが、ただ滿洲事變以來、認識不足といへば外交のことだと誰でも思ふやうになり、大分、その方の修業はつんでゐる。つまり日本の心臓も強くなつた。

X

上海共同租界の駐在警察官引揚げが、日本側に豫めその措置を講ずる余裕を與へず、突如として行はれた。悪意に出でないまでも好意を缺いてゐることはたしかだ。

この前にも租界巡查が逃亡して無警察になつたことがあり、將來はやはり日本專管租界を設



けることになるほかはないが、まだそんな問題どころぢやないのだ。

日本は少々の嫌がらせなんか気に掛けんでもよい。國力戦といふことは、言葉ではなく、事實だ。日本は日清戦役から日露戦役まで大分外債を募つた。日露戦争には日英同盟もあつたが今度は一切一本立ち、獨立獨歩だ。

韓非子の亡徴

八月二十日 上海特電によれば蒋介石は全黨員を軍事服務員として對日戦に従事させることになつたが焦土の決意を示すものと見られる。支那を犠牲にして蒋介石政權を最後まで維持するのは怪しむに足らぬ。

韓非子の「亡徴」には、「封内を荒して富の基を失ひ、外國の援助を恃んで内に備へなきものは當さに亡ぶべきなり」とあり「遠交の援助を恃んで近隣をあなどり、強國の救護をたのんで隣國を侮り恃むべからざるを恃み、侮るべからざるを侮るものはその國當さに亡ぶべきなり」

とあり「大膽放縱であつて、悔悟することなく、國は亂れても自ら智慮衆に勝れるを自負し、境内の資力を料らずしてその隣敵を輕易するものは、その國當さに亡ぶべきなり」とあり、その他種々の亡徴を述べてゐるが、蒋介石の場合にびつたり當てはまる。

x

わが海軍航空隊の連續遠征によつて、蒋介石の威力は完全に擊墜された。南京政府の震撼は凡そ想像される。

ナポレオンのアルプス越えは、冒險でなくちやんとした成算があつたといはれる如く、わが空軍の暴風雨をついた渡洋爆撃の歴史的成功も決して無謀の冒險でも何でもなかつたが、震撼させたのはひとり支那ばかりでなかつたと思はれる。日本の隠れた力はまだ幾らもある。

米國の態度いよ／＼公明、支那兵の租界突破を米國軍が阻止したのもその増兵の意義を明示する。日清戦争で、日本を認識し急角度の方向轉換をしたのは英國であつたことを、この際想起する。英國政府に人ありや。

英の上海出兵

八月二十一日 一歩々々、支那にひきずられる對支方針は面白くない。事變不擴大、局地解決などいへばむしろその反對の効果を生ずることが誰にもわかつたのである。近衛首相語るところ、政府の對支方針を明かにしてよし。

支那が上海停戦協定を破つたから、北支事變が日支事變になつたことを百も承知の上で、こつちが困るから、あつちでやつてくれといふやうな上海中立地帯案である。余計なお節介であり出來ぬ相談である。

英國にして共同租界を保護したくば支那軍に停戦區域へ撤退させるか、それとも一切よろしくと日本軍に一任するかの外はない。日本の嫌がらせをやつたところで、支那はますますつけ上つて、列國の干渉を惹起させる手段を擇ばなくなるだけだ。また租界爆撃以上のこともやり

かねない。

英國としては、窮島、懐に入る恰好だが、試みに思へ、日本軍がかりに撤退したあとで、上海に暴動が起つたら、英國の軍隊で防げるか。現に五十萬を突破してゐる支那避難民がいつ暴民化しないとは保證されない。

日本の國民を保護し、日本の權益を保護するのに、他國の御厄介にはならない。

恰度十年前、排英暴動が起るや、英國は透さず一萬余の大兵を上海に送り、現首相の令兄オースチン・チエンバレーン外相は「わら等は上海に流血の慘事を見ることを欲しない、しかし既に漢口租界事件の如き事態の勃發を見た以上、上海に防備を施さなければならぬ、英國政府が行ひつゝある出兵は純然たる豫防手段だ」と述べた。

さらに英外相は「支那に關する九國條約成立以來、不幸にも支那は以前にも増して不統一の狀態に陥つた」といひ、この事實はワシントン條約のよつて基礎とした假定を變更するものだとまで匙を投げた。英國はその後、對支政策を一變したが、英國を目的にすれば承知しない

ぞといふ決意は十分示したのだ。

今日の日本の決意は昨日の英國の決意だ。殊に英國をして日本の地位にあらしめば何をするかわからない。外人さへそれを指摘したのである。

蔣政權の見透し

八月二十二日 「南京で公務を果してたゞ今歸つて参りました」とは日高参事官の上陸第一聲であつた。

事變は擴大しても事變であつて、日支の國交は斷絶したのではないが、「不法支那軍の徹底的掃蕩に邁進すべきである」と日高氏が進言したのは、戦闘もまた外交の強力的形式に相違ないからだ。外交官は引揚げたのではないはずだ。

蔣政權が崩壊するや否やは「支那軍の徹底的掃蕩」に邁進することゝは全然別個に、政治的検討を要する重大課題である。日高氏は崩壊すまいといふ。

x

ウオーターローの戦ひに先だちはずきりナポレオンの没落を斷言したのはプロシヤの名將ブリュッヘルであつた。彼は決してナポレオンの軍を侮つたのでなかつたがその軍事的、政治的基礎の弱點を看破したのである。

南京を焼き拂つて遷都しても長期抵抗の一手をとる南京政府を、徹底的にやつつけるといふ認識が一致し、従つて外交交渉の時期でないといふ國論の一致してゐる以上、蔣介石の前途なんか問題でないともいへるが、必ずしもさうでない。長期抵抗は向うの手であるが、日本としては独自の見透しがなければならぬ。

x

ウイルコックス氏の語る如く、米國民の最大の關心は、オーガスタ事件である。つまり米國民は米國だけの問題に敏感である。モンロー主義に還つたわけだ。

中立法適用に二、三十名の賛成議員があるといふが、日本は米國のよい得意先である。棉花や石油をどうするか問題だが、平時に賣つてもまさかの場合、當てにならぬといふことにな

つては、平時の米國との取引も考へ物になる。

さういつた見地から、中立法適用に反對するものは正直の方で、多數の耳には、中立法適用は、日本よりも支那に不利だといふ意見が這入り易いのである。

ニューヨークの支那人團體が中立法適用は却つて侵略者を助けるといつた決議を大統領へ打電したが、日本は別に米國を徳とするには及ばない。

議會の形式化

八月二十三日 政府は非常時立法に對する臨時議會の審議を圓滿に進捗させるため、廿三

日から順々に衆議院、貴族院の各派代表を招き懇談會を開くといふ。

かつて豫算内示會といふものがあつた。それとは違ふが議會に先だち、各派の諒解を求めることは必ずしも新例を開くものでない。しかし内容的には、議會政治の裏道をゆくものといへぬことはない。

つまり議會が、ほんの形式的のものになり、事前の工作で大體がきまつてしまふといふことになるのは、議會政治の本筋とは思はれない。何故に堂々と議會で論議をつくし、國民環視の下に政治をやる心構へが、この非常時において不必要なのか、聊か「諒解」に苦しむのである。

しかし政黨に根柢をもたず、政黨を代表した關係を一人も有たない内閣として、かういふ工作をやるのも短期の議會だから、やむを得ないのかも知れない。

各派代表としては、懇談會によつて議會を形式化してしまはねばならぬ義理は少しもない。議會の骨抜きになることが、舉國一致といふわけでも何でもないのだ。

しかし、議會はかういふ懇談會などによる諒解を待たず、政府の非常時立法に反對することはないと信ずる。臨時議會に提出される事變費追加豫算は廿億圓を下るまいと見られ、これが全部公債支辨だといふが、十二年度豫算は五十數億圓、公債は卅四五億圓にもなる。一方に貿易は入超七億七千七百萬圓、下半期の出超なんて、當てことは見事にはづれてしまつた。

x

公債の消化、国防産業の擴充を第一義とする統制の強化は避けんとしても避けられないのだ。

そこで議會の問答無用かといへば、さうではあるまい。何故に追加豫算が全部公債支辨となるのか、かゝる統制の方法によつて國力が長期の事變に堪へてます／＼伸び、國民生活が不安に陥らずにすむであらうか。そこには、官僚獨善的に決定するにはあまりに重大な問題が多いのだ。

英國の労働黨は名目上は「陛下の反對黨」だが、外交政策や國防問題に對してはお義理一片の質問や議論でお茶を濁してゐるので、英國は全體主義國家になつたといふ批評さへあるが、それも時勢であらう。日本の無産黨が時局を認識して、舉國一致の片棒をかつぐのも當然である。

それを嘲るべきでないが、舉國一致の意義を履き違へた議會の沈黙無氣力は戒むべきである。

金の洪水

八月二十四日 金の洪水で悩んでゐる米國では、今後眞剣に「金の問題」を考慮する。現に南阿に次いで世界第二の産金國たるソ聯は、主なる資本主義國が金政策を變へ、金の相場が下つては大變だと心配してゐる。忽ち五ヶ年計畫に響くからだ。

今でも毎月平均一億二千五百萬ドルの金塊が米國へ流れ込む、ソ聯、日本の現送もそのうちにあるのだ。保有金すでに百廿億ドル、大戰直後の世界中の金の三倍に當る。

x

昔のミダス王の如く金を欲しがつた米國は、金のために身動きがとれない。いろ／＼手をつくして、通貨の膨脹、物價の騰貴を食ひ止めようとしてゐる。

金を安くすれば米國の大損となるし、金を活動させて物價を高くし、金の生産費を引上げるのも一策だが、それでは大インフレが起るし、世界的に金の生産制限協定をやらうかといつた

問題が起つてゐる。

x

昨年中の産金額を七年前に比し米國は九十五パーセント、カナダは九十三パーセント、濠洲は百八十パーセント、日本は百〇二パーセントの増加だが、ソ聯は五百七十七パーセントの激増だ。南阿は、一向殖えぬが貧鑛のみ掘つて、富鑛はとつて置く。金の生産過剰を恐れるからだ。

日本も今のうちに金をどしどし現送して要る物を買つた方が得策かも知れぬが、さりとて日本銀行が空つぽになつては大變。金の評價換はこの意義からも妥當であるが「金の異變」を警戒せねばならない。

陸軍上海上陸

八月二十五日

政黨代表との懇談會で、近衛首相は特別議會後の情勢變化から「東洋平和

確立のため徹底的に有効適切な行動」を執るに至つたことを述べたが、この點を一層はつきりさせたのは杉山陸相の言である。「彼の出づるをまつて初めて討つが如き方策を擲つて寧ろ積極的に軍事行動を起し速かにわれに抗すべからざるを彼に自覺せしめるにつとめる」とある。つまりわれの行動はます／＼戦争的になつたといへる。

外國では事變の最初から「宣戰布告のない戦争」と見てゐるが、支那の意圖は日本を戦争にひきずりに込むにあつたことは見え透いてゐたに拘らず、日本はあくまで不擴大主義、局地解決主義を執つたので、却つて彼の侮日抗日は輪をかけ事態は悪化した。

北支、上海において日本がこれまで拂つた犠牲は、日本がひたすら戦争的行動を回避し彼の反省を待つた誠意のために大きくなつたことは争へない。現にわが陸軍は八月廿三日に初めて上海に上陸しわが居留民は歡呼の聲をあげたのである。この歡呼の聲こそ、わが居留民の生命財産がいかに危険にさらされたかを語るもので、日本が「戦争」に對して何の「計畫」も「準備」もなく、その時、その場で、支那の挑戰に應じ防禦するせつば詰まつた消極的自衛行動以外の何物もなかつた「誠意の證據」といはねばならない。こゝに近衛内閣に對する内外の信用

があつてよいはずだ。

X

米國務長官ハル氏は日支兩國に對して「戰爭に訴へぬやう要請」した。戰爭とは何ぞや、といった論理鬭争は無用だが、日本は米國々務長官の去る七月十七日に聲明した平和原則に回答しないのは、事實が回答してゐるからだ。

日本は今まであまりに「自衛權」に拘泥し過ぎるといはれてもよいほどである。しかも今や可及的速かに事變を終局に導くことに獅子打兎の全力を用ひる時機に達したのである。

英國の上海中立地帯案

八月二十六日 海軍當局の發表した如く、八月十三日以来の上海陸戰隊の前後左右上下の大敵を受け極めて困難なる立場にありながら儼乎として守備線を確守した苦心は、いふべからざるものがあつた。

その苦境を切り抜け、やつと陸軍の上陸せんとする際に、英國の中立地帯案は飛び出したわけである。

物事に大事を執る慎重な英國の態度といひながら、日本の最も不利な時に中立地帯案は提議せられず、わが態度一變し、また形勢一變した時に提議されたやうに見えたのは損であつた。我はその御機嫌を損ずると知りながら、拒絶したが、日本陸軍が上陸してから英國へ回答した支那は、例の如く機を見るに敏である。

X

米國の有力紙ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン紙が、日本陸軍上陸を遙に歓迎したのは公正だ。わが陸軍の到着によつて上海は救はれたといつてもいいと思ふ。

郷男、陣頭に立つて全國的に政府に協力運動を起すといふ。公債消化に對して、ありつたけの智慧も絞るべきだが、こればかりは貧者の萬燈では間に合はない。ある所にはある力を出して貰いたいのである。

フランス國民は、その躋線をもつて公債を買つてゐる關係上から、國難に際して愛國心がい

やが上に高まるんだといふ、愛國心の唯物史觀的説明もあるが、固より日本人の愛國心はそんなわけのものにあらず。

しかも公債を買ふことが御奉公になるのは、やはり持つべきものは金だと思はれる。金持はどしどし愛國心を發揮せねばならぬ。

支那兵は強いか

八月二十七日 揚子江口から汕頭まで六百八十裡に亘る支那沿岸、一隻の支那船を見なくなつた。聊か手緩いが、自衛權の範圍ではこんなもの、まだこれでもかゝの手は段々ある。

第三國船は大手を振つて通れるから例の海上の自由問題なんか起らぬが、支那船の偽装などで、敵性の認識困難であり、鵜の目鷹の目で監視する第三艦隊の苦心は想像にあまる。

x

支那は依然たる支那の部分も多いが、昔のチャン／＼坊主意識では意外に感じられる健氣な

支那軍人も少くない。落下傘で降下し、最後までピストルで抵抗した廿一歳の閩海文飛行士の如きその一人だ。

しかも日清戦争が赤子の手をひねつたやうに思はれたのも勝つてからのこと、支那軍人としてはばかにならぬ將兵も少くなかつた。降参して部下を助けた後に自殺した北洋水師提督丁如昌の如き氣節凛然たる大將もあつたのだ。

英佛軍とともに太平賊を討伐した曾國藩の湘軍の如き、農民から募つた義勇兵だが、だらしない官兵とは比べものにならぬ立派な軍隊だつた。その太平賊の如きも最初は厳格な訓練規律を感嘆されたもので、今日の支那共産軍に優るとも劣らなかつた。

だから支那軍が現在くらゐ強くなつたのは驚くに足らない。この程度を驚くのは支那の現在のみでなく支那の過去を輕視し過ぎたのだ。

x

上海の外國人は、支那軍の缺點は砲兵で、砲のない師團が多く、あつてもせい／＼十二門乃至十四門、それも小口径だし、機械化部隊も貧弱なものだといふ。これで日本軍に勝てると思

つたのだから無銭砲だ。

英大使の禍

八月二十八日 英國駐支大使の奇禍については真相判明するまで何ともいへぬ。もとく日本の飛行機がわざ／＼英國旗の翻る自動車を目がけて「機銃の掃射」をやつたといふ如き「事實」は、日本國民が信じ得ないことだ。

殊にそれを「故意」にやつたなどと、ばか／＼しいことを英國が考へるものと前提して、日英關係を杞憂する如きは、英國といふものを餘程非常識な國、感情にまかせて何をするかわかない國と誤解するのである。

果然、同事件は一時、英國國民に非常な衝撃を與へて、政府、輿論ともに激昂の色を見せたが日本軍が故意にやつたのでなく單に一つの事故であつたと認めて一般の空氣は冷靜に歸つたといふ。左もあるべきである。日本側から「率直に釋明」したのが好かつたとある。

英國司令官はじめ英大使の「不注意」を認めてゐる。大使が一言でも日本軍に上海行きを通知して置いたら間違ひは起らないのであつたが、さすが英國的常識は、かういふ場合にも狂はないことを感服するのである。

雨ふつて地固まるといふ譬へは變だが、英國大使のみならず、英國政府は萬事うち明ける心構へでやつて貰ひたい。少くとも日本の常識を信用し、外國の權益も何も無視して無茶なことをするやうな誤解を去つて、しばらく日本の行動を見てゐる冷靜沈着な態度をとるべきだ。

x

英國の國際法學者某氏は、英大使遭難が「偶然の事故」なら英國政府は賠償を要求し得るがしかも復仇行爲に出る權利はない。これに反し大使が自ら危険を冒して交戦區域に入つたとすれば、危険の結果は自ら負擔すべきだといふ見解を披瀝した。

東郷元帥が艦長時代に英國旗を掲げた高陞號を撃沈して英國の輿論が鼎沸した時、英國の國際法學者が日本の行爲を當然と論じ英國國民を戒めた。戒められて溫和しくなつた英國國民も流石と思はせた。それが想起されたのである。

支那へゆくベランカ機

八月二十九日 上半期には二億五千萬元もあつた支那關稅收入が下半期には皆無同然となる、鹽稅も激減する、一體どうするだらう。

兵士の給料は何とか調達するとして、文官の給料は渡せまい。だから國庫の内容も最も知つてゐる財政部の役人が逸早く逃げ出すわけだ。殊に要人は平生の「心掛け」がよくしつかりため込んでゐる。南京、上海だけで彼等の銀行預金十億元といふのは話半分にしても大したもの。

南支一帶、支那船舶の航行禁止で困るのは國民政府のみでない普通の國家なら參つてしまふのだが、そこは國家にして國家でない支那だ。何事も高度文化國の寸法には當てはまらない。第一動員するのでもないから依然たる平時の兵力二百萬だ。困るのは飛行機の補充だが、百七八十機撃破されてもまだ何處かに數百機が潜り込んでゐる。だから敗算歴々たる今日でも、蔣

介石はそんなに弱つてはゐないかも知れない。

X

殊に現金は渡さなくても、外國商人は軍需品を貸賣する。現に米國のベランカ飛行會社社長は支那へベランカ型飛行機十九台積出を言明してゐる。

これはスペインへゆく筈だったが、中立法違反になるので支那へ賣つたのだ。時速二百八十里、積載量二千四百ポンドといふ。惜むらくは名馬痴漢を乗せる類で、いゝ飛行士は種切れだ。上海の米人飛行士十五名も歸米することになった。

支那の日本觀

八月三十日 一口に支那人といつてしまへないが、悪い奴になると日本人の想像もされないほどのことをやる。一九二七年から七年間、政府軍と共產軍との戦闘にさつと百四、五十萬人は虐殺され、中華民國となつてからでは同胞相食む千五百萬人に上つた。

「日本評論」の九月號にある支那人の日本觀はなか／＼面白い。日本に留學した知識階級には流石に日本を認識してゐるものも少くないが、その一人のいつた如く彼等は日本に媚びることを死んでも厭だと考へてゐる。つまりその所信を以て俗論と戦ふ勇氣がないために、愚かなる抗日論にひきずられるのだ。

一人は、忠君愛國を大本とする日本の教育が支那留學生をして「不逞化」させるのだと皮肉みたやうなことをいふが、日本人は刀の中に笑を藏し歐米人は笑の中に刀を藏するともいつてゐる。

一人は日本に固有の文化はないが、日本の優點は能く化するにある。文化とは管子のいふ如く化に重點がある。日本の文化は中心思想を有する化だといふ。

日本を理解してゐる支那インテリが支那を指導する時機が一日も早からんことを望む外はない。近衛首相のいふ如く支那の民衆を敵とするのでないのは日本の輿論だといふことを支那人

は認識すべきだ。

蘇支不可侵條約

八月三十一日 鬼の首でも取つた氣で、支那はソ聯との不可侵條約を公表した。

トロツキと直接間接何かの關係があつても、なくてもトロツキストと睨まれ、賣國奴の一味と疑はれてゐるもの殆ど無數。肅軍、肅黨はどこまでやるのか、スターリンの外は何人もわからない。

革命の初め二十萬人しかなかつた黨員が、一九三二年には黨員二百萬、准黨員百三十萬人に上つた。それが清黨によつて四人に一人の割合で除名され、また本年の初めには二百萬人を數へた赤軍が現在は百五十萬人そこ／＼になつたといふのだから、スターリン式大鉈の切味は凄

革命のドサクサに素質の悪いのが入黨し、その後、五ヶ年計畫でも入黨標準を下げ、屑がたまつた。そこで大掃除をしたといふのだが黨員や軍人は每晚悪夢にうなされて自分の首を撫でゝ見るやうなソ聯の現状だ。

一億七千萬人の人民を支配する共產黨員たるものは、嚴重な戒律の下に置き「資本主義的殘滓」のこびりついてゐる心理に絶えず防腐劑をふりまかねばならぬわけだが、そんな人に疑ひ出したら、きりがあるまい。殊に多年ソ聯に功勞のあつた元帥、大將、大官が賣國的陰謀を廻らしたといふことを信すれば、今後だつて何事が起るか知れない。

X

スターリン政權の脆弱性を即斷すべき根據は不十分だが、この際東洋方面にチヨツカイを出すまいといふ論據は十分あるのだ。固より油斷は大敵なり。

ソ聯が不可侵條約を最初に結んだのはトルコ、その次ぎはドイツ、イタリーとも結んでゐる。國民政府が「全然政理想を異にする諸國間に締結されたるもの少からず」などといつてゐるのは、つまり自ら疚しいところがあるからだ。

不可侵條約だけでは何でもないとしても、これを締結させた精神は、容共政策に深入したことを示すのだ。

技術拙劣の信用

九月一日 支那機がまた米汽船フーヴァ號の船體に大穴を明けた。非戦闘員や、第三國艦船に對する支那爆彈の命中率は百パーセント、その技術に感嘆する。

先日の米國旗艦オーガスタ號に支那の高射砲彈が落ちた事件について米國では砲彈の素性不明だといふことにしてゐる。日本は半分嫌疑を蒙つてゐる恰好で面白くないが、今度は米大使が早速嚴重抗議をした。その盲爆専門家に米國機が賣られたんだ。

X

支那の兵隊は「技術拙劣」の信用絶大、大抵なことをしても外國は怒らない。怒り方が違ふ。事實調査中の英大使負傷事件に對して、英國の大變怒つてゐるのは日本機がやつたといふ

獨斷に基づく。

第一、日本政府に國際法の講釋をして「戰鬪員、非戰鬪員の區別を忘却せる非合法的、非人道的慣行の結果」だといひ、滅茶苦茶に日本の飛行機が爆撃でもしたやうな獨斷をもつて一貫してゐるのは、どうも調子が變だ。

こんな事件の取り扱ひ方は英國政府の日本に對する好意が爪の垢ほどでもないことを感じられる。

輿論に勝てぬ大統領

九月二日 支那が國際聯盟へ提出した覺書に、日本軍が非戰鬪員を砲撃し爆撃したとある。盗人猛々しいとはこのことだが、彼のする事なす事、無軌道のやうだが軌道があり、すべて日本に對する世界の風向きを悪くする一定の戰術である。

政府を鞭撻して交戰目標を明確ならしめる意見が政友幹部會に出た。至極同感といふ外はな

5。

政府に頼まれた舉國一致ではないが、それをよいことにして、その日ぐらじに、出たとこ勝負の政治をやつてるやうな印象を少しでも與へてはならず、事變の性質と見透しとをハッキリ國民に知らせなければならぬ。

同時に世界に向つて事變の指導精神たる國際正義に對する日本の熱烈なる信念と、不拔の決心とを明かにすべきであり、外國の間がな隙がな、日支の間に介入せんとするやうなことを速かに斷念せしむべきだ。

固より外國の顔色を隙見して、一喜一憂する薄志弱行の日本でないが、外交官は今まで各國に向つて、日本の交戰目標を一般的に説明することを、何か知ら躊躇してゐた形跡さへある。

x

恐らく、在外交官は外人と同じく新聞電報によつて、事變の擴大を知つたくらゐで、何といつて外國に説明すべきかに迷ひ沈黙を守つてゐたのであるまいか。

でなければ、米國が輿論の國であり、民衆の國であるから、政府相手の小乗外交では駄目だ

といふ常識のない筈はない。

米國大統領にして、最後まで輿論に反抗して勝つたものはない。さすがのルーズヴェルト氏も司法制度改革案で估券を下げてからは、民主黨員を含む反政府的勢力の擡頭によつて手の著けられぬ有様だ。

だから米國大統領や國務長官が何を思ひ、何をいつても、日本によくはない輿論の風向きが強くなれば結局、英國に引きずられるかも知れない。

蘇聯と支那

九月三日 廣田外相に對する駐日支那大使の「嘘」は、嘘發見機では發見されないかも知れない。大使個人としては、ほんたうのことをいつたつもりとも思はれる。

それは支那一流の外交的現實の暴露であつた。少くとも支那は許大使をして見え透いた嘘をつかせたのである。第一、ソ支不侵略條約の裏面に何の密約もないなどは、眞赤な嘘である。

未だ中立法を發動せぬ米政府として、軍用機にせよ、他の軍需品にせよ、その國民の他國との商業取引を禁止されぬといふ建前である。ペランカ機は商業用飛行機として許可したことになるが、同機は明かに軍用機兼用であるし、支那が軍用にすることは、わかりきつてゐる。その點で米國の各方面か 政府を攻撃し、殊に平和團體は抗議してゐるのである。

然るにソ聯の場合は、貿易が國營であるから、支那に賣られた飛行機は政府が賣つたことになる。またソ聯は個人の海外旅行を嚴重に取締つてゐるから、その飛行士が支那へ行くのは、政府が派遣したことになる。商業の自由、旅行の自由ある國と違ふ。

x

許大使が不侵略條約は共產主義の禁止や外蒙歸屬問題に觸れないといふ如き、不侵略條約そのものの文義的解釋に過ぎない。

許大使は日本とも同じ不侵略條約を結んでもよいといふが、北支でも上海でも停戰協定さへ蹂躪した支那ではないか。

支那が眞に反省せぬ限り、何やらの起請證文の如き條約を結んで何になる。こんなことは、

日本に聽かせる外交上の言葉でなく、外國へ聽かせる外交上の言葉である。

議會の兩面

九月五日 開院式の勅語を拜した國民は、無量の恐懼のうちにも、赫々たる天日を雲間に仰ぎて、前途の光明感にひたるのである。

「遂に今次の事變を見るに至る朕之を憾とす」と宣はせらる。帝國の大精神、この御言葉につく。

肅然として、興奮の色なきも、嚴然として、決意の堅きを示す各派の對議會態度である。舉國一致の議會を、一齊

のやうにいふのは、日本國民の本質を認識しないからだ。議會には二つの面あり、面と戦時の面とである。議會の豹變ではなく、その半面である。この半面を知らないものが、とかく平時と戦時とをゴツチャにして議論したがるのである。

X

支那の抗日群が平和の民を漢奸呼ばりして暗殺する如き、徒らにその末期的徴候を見るに過ぎない。日本國民がものに動ぜず勝利を確信し、國內に神經衰弱的な叱咤怒號の聲を聞かぬのは心強い。在留外人も事變後の舉國一致風景には驚嘆してやまないのだ。

滿鐵顛覆事件の犯人が張學良の姻戚錢一家であつたことは、意外でない。張作霖の昭和二年六月二日死んだ時、張學良に遺骸の引取方を催促したが、一向返事もせぬ。たうとう滿洲の「協和會」の手で、作霖の母親や第一夫人の塋域のある錦縣へ葬つたが、姻戚の錢一家など知らぬ顔だつた。だから、彼等は學良との情誼からかういふ犯罪をしたのでない、搾取肥りした昔が戀しいだけだ。

日本の交戦目標

九月六日 聖旨を、奉體して、近衛首相は極めて明徹の論理と莊重の修辭をもつて帝國政

府の方針を説明した。さすがに非常時局を擔當する意氣に燃え、堂々たる青年宰相の貫祿を感ぜしめる。大出来だと思ふ。

初めは處女の如くモジ／＼したやうに見えたのが、却つて今日の「斷乎一撃を加ふる決意」を肯定せしめるのである。

事變の直前まで、緩和な對支意見が有力であつた。それも、支那の抗日・侮日政權が度すべからざるを裏書し、皇軍の威力をもつてする外、その反省を促す手段の全くつきたことを明かにしたのである。

支那の排日抗日は共產主義を排撃するとか、ファツシヨを攻撃するとかいふ不特定國家とのイデオロギーの對立によるものでなく、近衛首相の指摘した如く、日本のみを目標とし、日本のみを侮蔑する「古今東西未だかつて類例のないものだ」。

それは支那の文明國家として容認すべからざる排外的色彩を示すのであつて、日本がこれに向つて徹底的打撃を加ふるにあらざれば、やがて一般的な暴動に燃え上る危険性を多量に有するのである。

X

日本の交戦目標は、最小要求を含むに過ぎない。即ち排日・抗日をやめて日本と提携せよといふ、相共に東洋平和の確立に盡せといふ。これだけの反省を示せば「それでも尙これを追求せんとするものでない」といふに過ぎない。かゝる最小限度の要求に對して「飽くまで執拗な抵抗を続ける場合には、帝國として長期にわたる戦ひも勿論辭するものでない」が、支那のこれがために得る所は何であるか。

X

中南支沿海一部の航行遮断區域を全支の沿岸に擴大した。これだけでなくや、穴のあいた袋の鼠だ。「第三國の平和的通商は尊重」するとあるのは戦時封鎖でないからだ。

國民使節

九月七日

近衛首相は中野氏の質問に對し「帝國と致しましては長期であらうと、又短期

であらうと、徹底的に支那の政府並に軍隊に對して大打撃を加へるといふ覺悟に變りはない」と答辯した。

支那の抵抗力が大きければ大きいだけ、日本の發揮すべき打撃力を大きくせねばならぬが、その抵抗力は彼のあらゆる物理力であると同時に、あらゆる精神力である。その精神力は容共政策によつて強化されたと見てよく、容易なことでは匹夫の志を奪ふべからざるを覺悟すべきだ。だから、支那の政府並に軍隊に決定的打撃を加へてからは、長期抵抗に對して、我も長期攻撃の準備を要するが、それにはソ聯以外の外國的勢力に對する彼の依頼心を打破せねばならぬのだ。

日本は固より外國の鼻息を窺ふ必要はないが、外國をして支那の對日抵抗力を薄弱ならしめることが、支那を救ひ且外國の權益を救ふ所以であり、長期抵抗はますます支那を赤化へ驅り立てることを悟らしめねばならぬ。

外國をして支那を直接間接に力づけさせぬやうにするのは、支那の抵抗力を殺ぐ所以だ、徒らに支那の以夷制夷心理を増長させてはならない、特派大使派遣の議は賛成である。

x

御手洗辰雄氏の小冊子「時局と朝鮮」によれば、事變は朝鮮同胞二千萬人の愛國熱を沸騰させ、それが先づ國防献金と出動將兵慰問金とに現れた。七月八日には早くも大口小口の献金者が續出し、獨力、四萬圓を献納した富豪あり、一人息子が徴兵の義務を免れてゐるからと一萬圓を献納した總督府の屬官あり、八月十八日現在で百十一萬圓、新聞社にも寄託者がある。

朝鮮婦人の愛國婦人會に入るものも多く、上流婦人は「金釵會」をつくり、その愛用の金釵を抜いて献納し、全国的に運動してゐる。

皇軍將校に數人の半島出身者がゐるし朝鮮軍の金錫源少佐は模範將校だが、事變から、義勇兵、志願兵の請願が夥しく、さういふ制度がよいので當局はこの説得に弱らされてゐる。朴春琴代議士は全鮮有力者の輿論を代表して徴兵制施行の請願を衆議院に提出したが、これは「美談」の範疇でなく、統治上の重大課題を提出したものだ。

英國の抗議

110

九月八日 駐支英國大使遭難事件に對する英國の抗議文は、かなり棘々しい文句に満ち、高飛車にきめつける調子だ。東武氏は衆議院で「憤懣に堪へぬ」と述べたが、海相は「日本人は決して非人道的野蠻行爲はやらぬ、陸海軍とも同様である」と明快に答へた。

政府の中間的回答は、まだ我方飛行機の所爲だと断定すべき材料はないが、更に残されたる調査の手段を取るといふにあつて、かゝる回答を何故に抗議文を受取つた八月廿九日直ちにやらなかつたのか、「慎重を期する」にも程度があると思ふ。

x

殊に上海の英國總領事館は同日午後九時「突如何等の警告なく日本飛行機が自動車へ向け機銃の發射を行つた」と、斷定的に發表した以上、我方としても適當の方法によつて輕率なる疑惑を一掃するに努むべきであつた。

八月廿六日事件發生してから、十二日間にわたつて一切沈黙を守つたのは、少くとも世界に對して日本がいかに「恐縮」してゐるやうな印象を與へたのだ。英國官邊では日本が證據不十分を理由として事件を軽く片づけようとしても駄目だといつた口吻を洩してゐるが、その事件の重點は「事實」にあるのだ。その事實が不明であつて、英國の發表したものにも、日本機とのみあり、海軍機とも陸軍機ともない。ボンヤリ日本機と見えたゞけで、責任を負はされることは、如何に英國に對して敬意を拂ふ我方としても困るのである。流石に英國にも再調査論が擡頭した。

戰時體制

九月九日 第七十二議會の終了に際して、別に文句はない。強ひて文句を並べられぬこともないが、誰が議會に出ても、あれ以上にいひ、あれ以外の態度を執れるものでなく、その必要を國民は感じない。かりに政黨内閣の下に事變が起きたとしても、近衛内閣の財政政策、經

111

濟政策と異なる行き方はないのであつた。

たゞ戦時體制への編成替へに對して、近衛内閣の關係は議會において、異口同調的に「無理をしない」ことを約束し「民間との協力」を力説した。「自主的統制」をやることに無理はなく、これに苦情もいふ方が無理なのである。

けれども官僚獨善に對する國民の不安は本能的に根強いだけに、統制立法の運用は極めて小心翼々の慎重を要すると思はれる。この慎重によつて毫も立法の目的は阻害される譯のものでないのだ。

×

刀はすでに鞘を脱したのである。近衛首相のいつた如く「支那をして戦意を失はしめる時」まで國民はあらゆる犠牲を忍ばねばならない。しかも物價騰貴によつて消費の節約を余儀ならしめることは、出来るだけ避けて、國民生活の健康線を維持すべきだ。できぬ辛抱するが辛抱といふが、國民の體位低下となる如き消費節約は極力防止すべきである。

賀屋藏相もいつてゐるが、消費節約といへば三度の食事を二度にし、お通夜の如く一切の享

樂を絶ち、また文化的事業をも贅澤視して、火の消えたやうな社會的風景を現出させる如き履き違ひと行き過ぎがあつてはならず、平和的性質の國産品の消費減退は國民生活を不安ならしめることを心すべきだ。こんなことはわかり切つたことだが、それが必ずしもわかつてゐない方面もあるのだ。

×

英紙デーリー・テレグラフは、支那事變によつて日本は財政經濟その他に重荷を負ふに相違ないが、日本國民の犠牲心と忍耐力とは、これに堪へることを斷言し、日露戦争で日本は多くの戦費を外債で賄つたが、今日の日本の國力は一本立ちでやれる。日本はすでに莫大の外債を償却したし、海外投資も激増してゐる、と述べてゐるが、廿五億の戦費なんか、度胸を据ゑた上はものゝ數でないのだ。同紙は日本の市場喪失についていふが、その點も銃後國民の努力次第で杞憂を要しないのだ。

九月十日 四年前に締結した伊ソ不侵略條約は、そのまゝ、嚴然としてゐる。だからソ聯は國籍不明の潜水艦に東部地中海で二隻のソ聯汽船が撃沈された事件を取り上げて、てつきりイタリーの仕業に相違ない「確證」を握つてゐるといひ、國際法違反であり、同時に不侵略條約違反だと抗議してゐる。

英船も撃沈されたが、確證を握つてゐないと見えて、イタリーに抗議しない。ただ英佛兩國で今後、海賊潜水艦を見つけ次第撃沈すると申し合せ、更に最近海賊潜水艦の被害三十余件に上つた極度の不安防止のため地中海會議を開くことになつたが、やつぱりイタリーも招請してゐる。無暗に友邦を疑はぬところは、ソ聯の遺口と對蹠的である。

ソ聯の確證とは、二回の抗議にそれを明示してゐない。單にイタリーの責任だといふに過ぎない。イタリーは、そんなテロリズムは、こつちの知つたことでないと手きびしくはねつけ、

二回目の抗議には返事もしない。かういつた態度を人によつて感心したり、しなかつたりするが、とにかくどつちも鼻息が荒いものだ。

x

宋子文が對日經濟ボイコットを提唱し、米國に笑話を提供した。米國の官邊では聯盟の對伊經濟封鎖が無効果だつたこと、日獨協定を含む世界の政治情勢からそれが實行難であることなどを指摘されてゐるが、米國の對日輸出は、對支輸出の五倍に上り、日本が米國の大事なお得意様だといふので、財界もフ、ンといつた調子である。なかには米國が生糸を買はないと、日本の農民を困らせることになると反對してゐる。

上海戰の意義

九月十一日 上海戰線に陸軍の上陸してから、わが軍はいよゝ疾風、枯葉を捲くの攻撃力を示してゐるが、寡をもつて衆に對することは依然として變らない。

蒋介石が上海戦に全力を挙げつつあるのは、軍事的作戦であり、また政治的作戦であると思はれる。こゝで一日、日本軍を食ひ止めることは、一日、その政治的生命を保つことになる。それによつて、かれは人民をして虚偽の勝利を信ぜしめ、外國をして支那の現實を買被らせることができるからた。

日本の兵力が極めて少いことを知らぬ外國が、支那兵の「逆襲」したといふ事實だけで、上海戦線におけるかれのだらしなさ、意氣地なさ、抵抗力の薄弱さを、もしかして見落すやうなことにでもなれば、かれの戦争目的は達したつもりかも知れない。

戦争は政治である。上海の戦線に於いて、日本はそんな誤解の少しでもないやうに、敵の急所に向つて大打撃を加へねばならない。

支那聯盟へ提議

九月十二日 近衛首相の時局談にある如く、勝つたことが最大の目的であり、唯一の目的であるとして少しも差支ない。複雑微妙なる國家機構、社會機構は、どんな小さな釘一本、齒車一枚も、全體に大きな意義をもつのだが、政治的には、平時の大異も、戦時の小異となるはいふまでもなく。

貴族院改革や議院制度改革の如き、どつちかといへば勝つ目的に對しては大して關係がない。政府としては、あれだけ議會が誠意をつくしてゐるのに對して氣拙い思ひをさせたくないのは無理もなし。

しかし貴族院自身に進んで具體的な改革案を提げて政府に斷行を望むのが當然ではないか。もと／＼貴族院が自發的に決議したことである。

政府自身でやれる官吏任用の改革などは、誰に遠慮も要らぬ。凡そ統制の強化を効果的なら

しめるためにも、権柄面で人民を威嚇することだけに最も有能を示すやうな、常識不足の役人があつてはならないのである。

X

支那が聯盟總會へ日支事件を提訴する。これは聯盟を信用するからでない。聯盟で道徳的支持とやらを與へられることは、少くとも損でないから、轉んでも只は起きない流儀だ。或は米國の中立法發動を牽制するつもりかも知れない。

首相の街頭第一聲

九月十三日 日比谷街頭に進出した近衛首相の第一聲は、余程辛く採點しても「優」であつた。その文化的香氣の高いことにおいても、日本の總理大臣演説集の中で最もすぐれたものゝ一つである。

その内容は必ずしも耳新らしかつたわけではないが、政治家の演説といふものが如何にもつ

まらなく時代感の乏しいものが多いので、近衛首相が光るのである。

首相は、今次の事變も生活力旺盛なる日本が偉大ならんとする過程の必然的摩擦であるといひ、西洋における最近の國家觀も、日本においては先天的に具現せられてゐるといふ。なるほどヒットラー氏やゲツベルス氏の獅子吼する所も、日本が今さら珍しがるほどの理論はなし。

ヒットラー氏はボルシェヴィズムが眞の社會問題解決を怠つてゐる事實を斷乎排撃してゐるが、これは近衛首相が赤化勢力を排撃する思想と必しも一致しない。ゲツベルス宣傳相は日本をも含む各國が、ヒットラー氏の指導の下に反共戦線に動員されたといふが、日本はドイツの後塵を拜するものではないことを明かにしたい。

X

全日本司法保護事業聯盟が司法保護記念日として、釋放者保護事業の擴大強化を計り、銃後における再犯防止思想の普及徹底に努める。

事變から、犯罪の數がめつきりと減つた。それは釋放者の悔悟によるものが少くないと思ふ。

現に獄中からの獻金は夥しく、作業にも熱心を加へたが、身は軍籍にありながら應召の出來ないのを悲み、假釋放によつて喜び勇んで出征し立派に報國の赤誠を現してゐるものが多い。現在釋放者は毎年四萬人を超えるが、そのうち五十六パーセントは間もなく刑務所へ舞ひ戻る有様で、刑事政策の理想はすつかり裏切られてゐる。されば保護事業の不行届きの點も大いにあるのだ。滿洲事變に殊勳を立てた釋放者の數々の實例は、この事業に對する國民の關心を促すに足るものだ。

英首相の現實主義

九月十四日 北支、上海兩戰線、著々有利に發展する。戀と戦争とは手段を選ばぬといふ言葉がある。正に支那人の場合だらうが、實は戦争は、うそ八百では勝てぬ。

日本人は、子供が喧嘩すれば、罪を問はず先づ自分の子供を叱りつけるといつた風だ。國際關係にも知識階級はとかく他國のいひ分を信用し、自國の方には何か隠れた落度でもありはせ

ぬかと疑つてかゝるやうな心構へだ。

日本人の宣傳下手は國民性の美點に相違ないが、それだけ國際的に損をしてゐる。

X

駐支英大使事件などで、いろ／＼の世界的雜音があつても、日本は一向恐れぬが、支那は得たり賢しと聯盟へ提訴した。「日本の侵略」といひ「支那人に對する暴虐行爲」といひ「國際法の違反」といふ如き、何處まで圖々しいのか、呆れて物がいへないが、これが案外、世界の耳に入り易いことを支那人はちゃんと承知してゐる。殊に米國に對して、聯盟の活動に合作せんことを要請してゐる。かう打てばあゝ響くと心得てゐるのだ。米國も聯盟との惡縁は切れずハル國務長官の平和原則聲明となつた。

日本人は正直で、惚れた目にアバタも鑿に見えたり、くしやみも空谷の磴音と聞いたりする。イデオロギーで世界が動いてるやうに信ずるのも、やはりそれだ。

英國のスペインに對する態度、獨伊に對する遺口など、老妓の手練手管以上だ。地中海會議でも獨伊を怒らせることは極力避けてゐる。

チエンパーレン首相の眼中、エチオピアなく、聯盟なし、こゝに内閣更迭の真相が讀まれるといふ人があり、現にムツソリーニ氏と手紙のやりとりしてゐる。さうかと思ふと海賊潜水艦は容赦なく撃沈する。虚々實々。さすが外交の大家だけある。

不干渉委員會有りながら、スペイン政府軍にも、革命軍にも外國の義勇兵が續々加はる。英國がフランコ將軍に秋波を送るのも隠れない事實である。

ソ聯が「海賊はイタリイだ」といふ。イタリイの商船に一隻しか被害がないのは事實である。ドイツは、地中海會議の協定では海賊防止に不十分だといふ。この協定でソ聯は黒海から地中海へ出る権利を得たから、どしどし海賊行爲を繼續するだらうといふ。何が何だか、變挺なものだと思ふ。

自治統制

九月十五日 手形交換所大會で、近衛首相は戰爭論を一席辯じ、近代の戰爭は兵力と同時に

に經濟力によつて決せられるといふ。

昔の戰爭には一に金、二に金、三に金だといったものだが、現代では金よりも物である。こゝに物を中心とする非常經濟立法があり、それは「事變の目的達成」のためである。事變の目的達成後のことは、まだ論議に及ぶまい。

賀屋藏相は、臨時資金調整法の運用は「一に當業者の自治に俟つの方針」だといひ、「直接調整の發動を必要とするが如きことなきやう衷心希望」する。傳家の寶刀ともいへぬが、氣休めに抜かりはない。

森理事長もいつたが、「自主的統制は機宜の措置」である。その目的を達せぬ時は、強制的統制となる外はないことは、何人も忘れまい。何といつても、戰爭は勝たねばならぬ。勝つたためには要るものは要ることになる。

X

英國は世界大戰開始第三年目に徴兵令を布いた。それまでは義勇兵を以て戰つた。必要は強制を生むのだ。自治統制は官治統制の入口と心得て置けば間違ひないが、財界に無用の威嚇を

與へることの有害無用は、すでに大抵各方面でわかつてゐる。おなじ事をして愛國心の發動に水をぶっかけぬ方が効果が多いのである。

X

颱風一過、案じられた稲作も、岡山方面、北陸方面の被害が輕微であつた。朝鮮では二千四百萬石以上の大豊作見込で、移出力も一千万石を下らぬと見られるのは、眞の天佑である。農産物ばかりは天佑が第一だ。人事をつくしても限度がある。

今から四百八十六億一千六百萬ドルを使つた。大戦當時のドイツなどに比較するに及ばないが、ドイツも食糧難で一番苦しんだ。その點だけでも日本は違ふのだ。

ヒットラー總統は最近、新聞記者に會見して、ドイツは七千萬の人口を養ふ食糧に十パーセント乃至十二パーセント足りないから、植民地返還を求めろのだ。何故に英國、白國、スペイン、葡萄牙、日本が植民地を有つのにドイツのみ有たないでゐなければならぬのかといつた。食糧だけは日本は如何にも持つ國の仲間である。

米國中立法の意義

九月十六日　チリ代表が聯盟を時代の現實に即せしめるやう規約の改正を唱へた。カンフル注射だが、まづ手遅れだらう。米國でも聯盟を「病體」と診断してゐる。

米國の中立法發動を恐れる支那は、聯盟へ提訴しながら戦争といふ文字を避け、たゞ侵略だといふ。中立法では、禁制品以外のものでも交戦國が米國の商品を買ふには、現金取引で且それを自國船で輸送せねばならない。

支那にその「現金」がお生憎であり、また支那の自國船といふやつは交通遮斷と來てゐる。だから中立法で支那だけが經濟封鎖同様の目に遭ふのは片手落ちだといふわけで、米國の支那最良はその發動に反對してゐる。

もと／＼、中立法は西洋へ適用するためにつくつたので、東洋のことは考へなかつた。つまり歐洲大戰に捲き込まれたくないといふのは表面の理由だ。しかも英國がドイツと戦争する場

合英國とは通商を繼續するが、ドイツには經濟封鎖をしようといふ隠れた動機があることは、リッブマン氏などが指摘してゐる通りだ。

X

ドイツには大西洋の制海權なく、従つて自國船が米國へゆけず、また現金も乏しい。金と船と制海權のある英國は、この中立法の下に平氣で米國と通商する。

世界大戰の時のやうに英國も軍需品は米國から買へないが、今では英國の軍需工業も發達したから、それは平氣だ。

この中立法と英國との關係は、日本との關係とそつくりおなじだ。そしてドイツと支那とも似てゐるので、米國は困つたのである。

尤も、米國は支那のためのみに中立法發動を躊躇するのではない。日支の紛争に捲き込まれたくないのは本音である。日支兩國を氣拙くさせて、さうして自國商人に見す／＼儲ける機會を失はせるにも及ぶまいといふ肚だ。

そこで米國としての問題は日本の全支沿岸の航行遮斷である。支那へ輸送される非平和的商

品たとへばウイチタ號の飛行機などのことで、日本と紛争を惹起したくないから、政府船による軍需品輸送を禁じた。また民間船には、危険を冒してやるのは仕方もないが、その代り政府は一切關知しないといふことにした。なか／＼「賢明」な措置である。

X

北支最高指揮に寺内大將あり、上海に松井大將ありと知つて、國民は成程と思ふ。防空演習も演習とは思へなくなつた。

遊撃戰術

九月十七日 支那國民も盲目でないから敗算歴々たることを國民政府も認めるやうになつた。勝つた／＼から負けた／＼といふやうになつたのは、反戰論の擡頭した證據だが、抗日意識が挫けたとは早合點されまい。

長期抵抗といつてはゐるが、支那がいかに近代國家的要素をかき、血の廻りが結滞してゐる

にせよ、近代戦による打撃の深さ大きさは、應へる所には應へて來たのである。

殊に抗日意識は極めて思ひ上つた日本觀を燃料としてゐただけに、現實の力で叩きつけられた苦痛は瘦我慢をしてゐても大抵、限度がある。敗戦の効果は有形物形互に作用し合つて戦鬪力を崩してゆくことになる。

X

勝ち戦さはあらゆる困難にぶつかることによつて勇氣百倍するに反して、負け戦さに堪へるといふことは異常の力を要することは心理學的にも容易に説明される。ただ今日において一縷の望みは外國の干渉であり、ソ聯の援助であるが、この二重政策が、何といつても米國などによい影響を與へない。

ニューヨーク・ヘラルド・トリビュン紙は卅萬人に上る支那共產軍が死者狂ひに戦つてゐるといひ、蔣介石を惱ました遊撃戦術などをもつて、どこまで日本軍に抵抗し得るか、それを見るのはこれからだと論じてゐる。國民政府はなほ更共產軍に多大の希望をかけ、西南派の李宗仁も、日本は主力戦を利とするが遊撃戦に不利だなどといつてゐるが、すでに山西に入つて

數ヶ師の共產軍を指揮する朱德の手並も近く知れる。

X

遊撃戦術はブリュヘルの得意とする所だが、滿洲國の赤匪のやうなもので厄介だといふだけのものだ。支那の要所々々を占據されたら長期戦で困るのは支那でしかない。その事は外人もいつてゐる。

防空演習第一日の成績は大體よろしの程度。しかし防空の意義は漸く徹底し、少くとも空襲に對する無智の狼狽とか、恐怖とかいふことは絶対にないことが明にされた。この精神的効果が大きいのである。

米紙の決論

九月十八日

涿州の陥落は次ぎに來らんとする大とり物を思はせる。戦線百里に展開し、至るところ鐵腕、枯木をへしよる如し、さりながら懸軍長驅の勞苦ますます加はる。

×
畫龍點睛、ウイチタ號のベランカ機積載航行禁止によつて大統領布告が潑刺として生動する。荷揚されたベランカ機よ何處へゆくのだ。

×
ルーズヴェルト氏は、政府船による日支兩國への武器禁輸をもつて、日支紛争干渉に米國を引込まうとする聯盟の計畫に先手を打つたのである。聯盟理事會が南京政府の提訴を取り上げて審議を開始する間に、決然として米國の動向を明かにしたのである。聯盟との御同行は御免を蒙るといはぬばかりに、「孤立の光榮」に歸つたらしいのである。

×
日露戦争にルーズヴェルト大統領の示した對日好意は非常なもので、獨佛が露國に加擔して開戦するなら米國は日本の味方になると通告した事は、デンネット博士がル氏の手紙を調べて確められた。日本が成長して米國の寵兒でなくなつてからは、日米の摩擦がだんだん加はつた。華府會議は日本に壓力を加へ、その精神がスチムソン外交まで流れたが、ルーズヴェルト氏に至つて大回轉をした。

スクリップ、ハワード系の新聞は、日米の太平洋における勢力範圍を百六十八度の一線とし米國は日本の一線を越えて一切の軍事的施設をやめ、比島、アリューシャン群島の一部、ミッドウエー、ウエーク、ガム諸島の根據地、要塞を撤廢し支那にある陸海軍をも引揚げて居留民の保護は日本に一任するがよいと論じ、これはプロ日本と批評されるかも知れぬがプロ・アメリカだといひ、その代り日本も米國の一線を越えて一切手出しをせぬやうにしようとした。至極快論である、御相談に乗つてもよろしい。

心腹の患

九月十九日 涿州平野の占據で劉備、關羽、張飛の桃園の盟を想ひ出す、同時に袁紹の幕僚が、玄徳は癩疥の患に過ぎぬが、曹操は心腹の患だといつたのを想ひ出す。蔣介石は往年この三國志の言葉を轉用し、軍閥の叛亂は癩疥の患に過ぎぬが、共產黨は心腹の患だといつたものだ。それが西安事變後、共產黨に虜にされた。

支那はこの共產化によつて英米に見離されることを恐れ、顧維鈞なども外蒙を献上した秘密條約を否認してゐる、一説にはソ聯がソ蒙相互援助條約を解消し外蒙を含めてソ支援助條約を締結したとある。

ソ聯は、外蒙を支那の領土と認める代りに、支那全土をそつくり赤化しようといふ遠大の計畫である。ヨツフエは孫逸仙を手のうちに丸め込んで、支那の統一及び獨立の保障を與へ、それで軍事顧問や政治顧問を派遣した。今度だつて蒋介石には十分、氣休め文句を與へたに相違ない。

顧維鈞は、聯盟が干渉せねば、日本は外國の經濟的利益を脅かすなどと嚇かしてゐる。理事會が大急ぎで諮問委員會に付託したのは、この會なら一つは米國も以前の關係があり、また理事會や總會より氣輕に討議できるからだが、米國が参加せず、参加しても義理一片、傍聴させる程度とは分り切つてゐる。

米大統領の布告は、中立法を發動せぬためと見るものと中立法全部適用の前提と見るものと米國の新聞にもいろ／＼ある。

布告の意味は自治的禁輸である。それでも危険を冒してやる場合に、日本のやり方一つで米國の輿論が沸騰する。だから一切の米國船に武器禁輸をした方が問題は起らない。つまり米國以外の船しか、米國の武器を運べないやうにするかも知れない。

交戦國へ武器販賣禁止となれば、一層徹底するが、かくして中立法の完全適用へ一步一步深入すれば、やはり支那が困ることになる。

前の米議會で、屑鐵禁輸法案も出たが、鐵業者の反對で通過しなかつた。大統領も、あちらこちらの注文で、うるさい事だ。

國民使節と宣傳

九月二十日

所謂宣傳といふ概念とは違つた使命をもつ國民使節であらうと思ふ。

四角張らずに自由懇談の形式をもつて事變の眞實を説明し、解釋し、討議するのが最も効果的である。

殊に米國民にはザツクバラに彼我の見解をつき合せて見るのがよい。米國民は人種的にも寄合世帯だから、何か世界的事件が、いろ／＼の感情と利害とが交錯し、誰でも意見を吐くことを好むし、違つた意見にも耳を掩はない。輿論の構成が極めて自由な形式で行はれる。

世界大戦當時の如き、新聞を読みながら、所嫌はず相手選ばず討論會を開くといつた風景であつたが、参戦までにはかくして國民的輿論が自然に落ちつく所に落ちついたのである。聯合國側の宣傳が成功したのは、この呼吸をうまく呑み込んだからだ。

味噌の味噌臭きは上味噌でないやうに、宣傳の宣傳臭きは最悪の宣傳であるが、わかる時にはわかるといつた流儀は國際的に面白くない。今度のやうな使節は米國民も歓迎するを疑はぬのである。

第一、日本の戦時統制が、國民の愛國心による自治的色彩を帯びてゐるのは、かういふ場合ものをいひ、國民使節に對する外國の信用があると思はれる。

支那船が外國人のものゝ如く假裝して航行遮斷の抜け道をつくるのに對して、必要な指圖を斷行するのは當然である。外國もさういふ嫌疑により臨檢留置されるやうな危険を冒してまで

何も支那船を買つたりするに及ぶまい。

X

藤原銀次郎氏の「事業學、人間學」と題する近著は氏の體臭が感じられて面白い。廿二歳で慶應を出て、松江日報の主筆となり、四年間さん／＼貧乏記者の苦勞を嘗めた氏が三井に入つてからはトン／＼拍手に出世し製紙王にノシ上げた。「月給の額を忘れよ」と説教してゐるのは廿八で富岡製紙場の主任になつたほどの氏として無理はないが、氏もこれからは腕でも學歷でも成功困難なことを認めてゐる。本書によれば日本の紙の生産高は第五位だが消費高は世界の第十四位だ。まだまだ「消費節約」の對象とすべきではないといへる。

南京空爆の通告

九月二十一日 堂々たる海軍機の編隊を帝都の空へ仰ぐの日、長谷川第三艦隊司令長官に對する南京空爆の通告文出づ。「南京は支那軍作戦行動の中樞なり」この一語の鋭さにいかなる

横車的論理も太刀打ちできない。宣戦布告を戦争の条件と見る如きは單なる空論だ。

海軍航空隊による敵機撃破既に約二百四十余機といへば、支那の空軍に對する打撃に不足はないのだが、今度は蒋介石の骨髓に徹底する打撃を加へねばならぬ。

これまでも南京の格納庫をはじめ兵器廠、火藥庫、燈台、兵舎、鐵橋等に空爆を加へたが、これからは南京市及び附近における支那軍並に作戦及び軍事行動に關係する一切の施設に對して廣範圍の爆撃その他の加害手段を加へるのである。國際法上、南京それ自身軍事目標と認めず、少しも差支ない。

いふまでもなく非戦闘員に對して攻撃する目的でも何でもないが、非戦闘員を絶対に一人も危険にさらさず戦争することの不可能なるは地上戰然り、空中戰はなほ更である。だから非戦闘員としては軍事的目標となる危険區域から避難する外の手はないことになる。

X

爆撃または攻撃を、絶対に禁止することが國際常識となつてゐる平和的建造物でも、それがいやしくも敵の軍事上の目的に使用されてゐる場合には何の遠慮も要らないのだ。これまた自

明の理である。従つて南京は一つの兵營と見るべきであり、支那軍閥を敵として一般支那人を敵としないわが方として、南京退去を警告したのは、極めて親切なる措置であつた。

外國新聞には事變に關して随分とひどい沒常識なことを書いたのを見る。甚だしきは駐支英大使事件に關し日本軍が蒋介石を攻撃してもよくない、かれは非戦闘員だからなどとあつた。今度も何か世迷言を並べるかも知れない。しかし世界大戰で如何に英國の國際法を變へたかを想起せねばならぬ、日本はこの點では極めて小心翼翼先例を學ぶのみだ。

米國で上海事變に活躍した飛行家は何十人とかの米國生れの青年を飛行士に養成してゐるが間に合ふまい。ソ聯機、佛國機も飛行將校つきで支那へくるとパリ特電にある。來るなら來て見るがよい。

支那兵強し

九月二十二日 北支良郷の一捕虜曰く「一番恐いのは飛行機、次は戰車、次は日本軍の突

貫だ」と。皇軍の一番恐いのは降雨にぬかる泥道だ。雲泥の相違だ。禹は泥行には楢に乗つたとあるが、北支に往つたものでなければ泥行の實感が浮ばない。

ナポレオンがウオーターローで敗けたのは、雨で得意の砲撃が思ふ通りに行かなかつたからだとあるが、皇軍は固より泥道なんかまごつかないのである。

蒋介石の誕生五十年に支那の兵隊は安月給のうちから強制献金までさせられて飛行機をつくつた。それで空軍では日本に負けないと思つたが、いざ戦争となると一台も味方の飛行機が來ないので、戦線では不平タラ〜だと。可哀想に蔣一派に著服されてしまつたのを知らなかつた。

支那にも千台からの飛行機があるにはあつた。米國機、イタリー機を始めとして各國からの寄せ集めだが、一概にガラタタとはいへず、性能の優れたものもあるにはあつた。

だから飛行機の數ばかりあつてもものゝ役に立つものでない。しかし支那の空軍も鳥なき里の蝙蝠で、蒋介石が地方軍閥に睨みを利かせるには十分の威力を發揮したのであつた。

X

支那空軍には以前から多少の外國人もゐるし、今後も續々やつてくるものと見て置くべきだが、何しろ金より大事な命を粗末にする筈なく、ほんたうの決死的闘志がないにきまつてゐるのだ。

そこになると一たび飛べば生還を期さない皇軍の勇士だ。平生の記録的飛行競争などはとにかく、實戦になつて見ると、お雇ひ根性のもものでは駄目だと思ふ。かういふ點でも、支那は歐米依存主義の現實を暴露してゐる。

支那兵を弱いといふのは、皇軍とくらべてのことだ、これで他國との戦争なら、支那軍はなか／＼昔のチャンコロではなくなつた。だから、支那の赤化に對する將來の脅威を歐米の資本主義國は最も痛感し、日本の力にたよらねばならない。

世界大戰で英國兵の俘虜となつたもの卅六萬人、佛兵は五十五萬人、イタリー兵は五十二萬人、露兵は二百五十萬人、ドイツ兵九十六萬人、奧國兵百卅萬人、支那兵がどし／＼捕虜となるのも格別怪しむに足らぬ。日本兵は俘虜とは敵のことだと思つてゐる。

空爆通告の反響

九月二十三日

蒋介石の自殺未遂説が上海から傳はるだけでも、彼の致命的打撃が一般に感じられざるを見る外はない。だから「相當根據ある説」としなければならぬ。何かしつかりした反響を擧げないうちは漫然これを否認するわけにゆかない。

こゝで自殺説について、とやかくいひ争つて見ても仕方がない。しかも彼が、政治的にも軍事的にも、なし崩しに自殺しつゝあることは何人も疑問とせぬのである。ひとり蔣の個人的自殺を意味するに止まらない。

x

果せるかな、南京空爆の豫告について、國際公法呼ばはりの外國から異議申し入れとなる。いふまでもなく、南京空爆のいかに偉大なる軍事的効果あるかを示す世界的反響そのものだ。日本が外國の期待する如くには、財政的にも經濟的にも一向弱味を見せずして、ここで支那

の軍事根據地である南京を焦土とし、その主なる抵抗力を根こそぎ無くしてしまふことになるのは、支那を食ひものにするものゝ平然たるを得ない事態に相違ない。

その點は十分お察しすることもできるが、日本の空爆は敵の軍事的施設に對するものであり、外國の使臣に撤退を勸告したのは、浮世の義理として一應挨拶に及んだので、撤退を命じたのも何でもない。強ひて空爆見物をしたといふなら、別段それに異議がない。ハル國務長官の昂奮は、何かの勘違ひだらうが、支那の空爆阻止運動が利いたかも知れない。

尤も或る國の如きはスペインでやつた手口で「火事泥」をやる魂膽とは見え透いてゐる。

蒋介石は最近、外國記者と會見して、日本の野心は、全世界征服ではなくとも、支那全土の征服にある、聯盟は早く効果的手段をもつて日本の侵略を阻止せねばならぬなどといつてゐる。こんな出鱈目でも、一犬虚に吠えて萬犬實を傳へるに至らぬとも限らない。わが方としては毅然として信ずるところを行ふのみだが、誤解はあくまでも一掃せねばならない。

英大使負傷事件解決

九月二十四日 駐支英大使負傷事件の圓滿解決は結構だ。つまり事實の相違が、彼我の冷静なる調査によつて判明し、もつれた糸がほぐれる。

英大使の負傷したのは、英國の抗議に記せられた太滄の南方六マイルの地點ではなく「嘉定の南方なりしやも知れず」といふことを英國も認めたのである。嘉定なら當時支那軍をつた戰場である。こゝに日英の見解一致點があつたので、新任駐日英大使は流石に磨きのかゝつた手腕を見せた。

x

日英の葛藤擴大を期待した支那は多少失望したに相違ないが、それだけ戦争そのものにも外交の重要性を示すものだ。戦争は敵の抵抗力を殺ぐを眼目とする。苟くも敵に利用せらるゝ如き一切の障礙物を除去し、若くは減少し、力の集中をはからねばならない。

國內に無用の摩擦を禁物とする如く、無用の國際的摩擦も出来るだけ回避すべきである、これは勇氣の問題でなく、戰略の問題である。

日英關係好轉の契機と雀躍するのは輕率であつて、日英の支那における利害の複雑性は單純なる樂觀を許されぬが、利害の衝突は宗教的偏執やイデオロギーの衝突と違つて、そこに打算があり、反省があり、讓歩があり、協調があり得る。

x

利害關係の大きいことによつて日英の激突に必然性ありと斷するなら、英國は世界各國を敵とせねばならないことになる。英國の外交はそんなに一本調子でなく、狂信的でなく、衝突激化の不利を感じる場合は、極めて賢明なる態度を執る實例も少くない。

だから、英國は一層支那事變に對する認識を深めるべきだが、今のところ蔣介石政權との因縁は深く、聯盟の廿三國委員會では九ヶ國條約適用の意向を示唆したといふ有様だ。戦局の進展につれて外交の豊富が要求される。

米國は行動において穩健、言葉において必ずしも然らず、米國の外交には多量に國內消費用

の意味があると知るべし。

ソ聯の現金主義

九月二十五日 不可侵條約といふ平和の衣を着たソ支密約の武裝的正體が上海特電によつて明白となる。南京にもぐり込んだといふボロイチンが、蒋介石といふ窮鳥をどうにでも籠の中で鳴かせるのは何でもないことだ。

かつて孫文に對して毎年二百萬留を興へ陸軍教官の養成と武器供給費にすることにしたボロイチンだ、今度の密約は大掛りのもので、差し當り日支紛争に國際干渉を導くとか、日本の兵力を支那各地に分散させるとか、兵器軍需品を供給し、義勇兵や技術家を派遣するとか色々ある。

支那はソ聯邦より提供する軍需品代金の半額をソヴェイト國立銀行に供託するとあるが、恩を賣るにも、只は賣らない。たとひ半額でも現金主義だ。スペインでも前首相とソ聯大使との

密約で、タンク、武器、軍需品を供給する契約を結んだが、二千萬ポンドの代金を取つた。それがソ聯の産金と一緒にロンドン金塊市場で賣られた證據がある。

もつとも、ソ聯だけでない、フランスへも、メキシコその他へも、スペイン銀行の金貨は現送された。それに反對した重役は皆殺されたり、追放されたり又辭職したりした。

x

英大使負傷事件に對する英國の外交的「退却」について、ロンドン電報によれば首相チェンバレン氏をはじめ、保守黨政治家が極東における新たな情勢に鑑みて、日英の紛争を憂へた結果であつて、英國の財界が最もこの事件に関心し政府を動かしたらしい。英國がいつまでも東洋の現實を認識しない筈はないのである。日清戦争時代を繰返す歴史の過程かも知れない。

米大統領と獨裁

九月二十六日

企畫廳專任總裁に瀧氏が拔擢される。近衛首相との長い關係で氏が法制局

長官に役不足などいはなかつたのは當然としても、あまり顔を世間に見せたがらず、店頭裝飾にうき身を窶さいなところ、大物ではないがどこかシツカリした人物を思はせた。

どれだけ革新的經綸をもつてゐるか一向知るよしもないが、オツチヨコチヨイでないだけでも、世人に物騒な感じを與へない。まづ無難な人選である。

×

ルーズヴェルト氏のブレーン・トラストは知識階級の間にもかなり悪評噴々たるものだが、大統領は先日の演説で自分は決して獨裁なんかやらない。近代の男女は、政府のすることに御無理御尤もでないし、も一つは現在の獨裁政權のために世界の文明は脅威されてゐると思ふ。しかし社會政策を速に行はなければ米國も獨裁の波濤に吞まれることになる、と鮮かに一矢を酬いた。獨裁といふ言葉は嫌ひと見える。

×

東京大阪の九月生計費騰貴は食料を筆頭とする。しかし輸入統制は、主として「衣」と「住」との原料に行はれる、少くとも著物の高くなることは防げまい。

絹物保護のため人絹織物や人絹交織は偽りなく標示させることになつたが、人造羊毛物は殊更區別しない政策をとるかも知れない。つまり知らしめずして著せしめることになる。羊頭を掲げて人絹を賣つても構はぬ。

ドイツでは洋服を注文すると、洋服屋がお客を森林へつれてゆき、どの木地になさいますといふなど、冗談みたいな悪口が廣がつてゐる。ベルリンで男女の連れを見ると必ず婦人の方は相當な身装だが男子の方は型の崩れた、毛の脱けた洋服だといふが、しかし代用品はかくして發達するわけだ。艱難汝を玉にするのは一般的に戦争と文化との關係にも當てはまるのである、物事は大抵二つの面あり。

蔣介石、國民黨、共產黨

九月二十七日 八月中の全支貿易は前月よりも五割減、昨年同期に比してもほと同じくらの激減し、九月中の貿易は殆ど全滅だ。従つて關稅收入といふ水の手が切れて、支那の國庫は

乾上つてゐる。

然るに蔣介石は、外國記者に對し、中國近海の航行遮断は中國の抵抗力に大して影響しないとなど空嘯いた。

だから根據のない空宣傳が逆効果を生ずるだけだといふことがわかる。強がることによつて弱音を吐くことになる。

蔣介石のお蔭で、支那の民衆が困つてゐるのは同情に値するけれど、これが近代戦といひ全體戦といふものゝ特質である。「戦闘」のみに「戦争」は限られてない。世界大戦では正義人道のために戦ふと稱した英國を初め聯合國は、獨逸の非戦闘員をして餓え且つ凍えしめんとしたのであつた。

日本は支那民衆を可哀想だと思ふが、支那はいはば重體の病人である。病名は蔣介石であり、國民黨であり、共產黨であり、余炳續發のていだが、とにかくがい藥を飲ませ、日常生活状態を止めさせなければ健康體には復しないからやむを得ない、香港向けのわが輸出警戒も當然の處置である。

x

戦争が如何に續いても中國の抵抗力は無限だなどと蔣介石はいふ。しかも山西省などに世界最大の石炭があることは何十年前から知れてゐるがそれが徒らに埋れてゐる。

北支の大捷によつて、河北棉の對日輸出可能となる。これが支那の民衆を助けるために戦ふ日本の目的を現實的に示してゐる。孟子は「この日いつ喪びん」といふ湯誓の句を引いて民を殺すには刀をもつてすると政をもつてすると異らぬ、と喝破したが、支那の民衆の敵は誰でもない、蔣介石、國民黨、共產黨の三位一體だといふことを支那人に悟らしめねばならぬ。

日本の正直

九月二十八日 ソ聯では、ソ支密約を「偽作」だと空とぼけてゐるが、布施氏の特電に極東赤軍有数の飛行將校キセレフが上海でわが戦闘機に射落され重傷を受けて死去したとある。うそは見事に射落された。

密約に、ソ支協力によつて「日本の兵力をソ滿國境、外蒙國境、北支、中支南支に分散せしむべき畫策」とあるが、これがそも／＼支那事變を惹起した目的である。支那をダシにして赤軍の創痍を癒さんとするのである。

この目的のためには、支那人民を干乾にしても構はない、四百余州を焦土にしても自分の腹は痛まない。あくまで長期抵抗によつて日本の兵力を分散させようとするかも知れない。

×

ヒットラー、ムツソリーニ兩氏の會談について、消息通は獨伊兩國は極東に「黄色人種の帝大國」出現を喜ばぬ建前だが、背に腹はかへられないとして、事態が日本の有利に展開するを希望するに「傾」いたといふ。蓋し兩氏の腹は赤色よりも黄色の方がまだ我慢されるといつたところだらう。

それにしても、日本の役割は何も「歐洲文化の擁護」のため獨伊の番兵になるといふのではない。だから防共の急務にさへ一致すれば、決して腹の底の底から日本を尊敬する友邦を得たいなどと拘泥する必要はない。

世界で最も傲慢な英國とも日英同盟を結んだ。それはイデオロギーの一致によるのではなく、日英同盟が廢棄された後、故グレイ子はその著書に「日本から曾て不當に日英同盟を利用されたことはなかつた」といつて敬意を表した。

×

日本は友邦としては最も好ましき「正義且誠實」な性格を有つてゐるのは、英國が今でも認めてゐる。日本の味方となるのは損がないといふことは世界の通り相場であるが、何しろ日本の飛躍には脅威を感じる。だから「親切」な忠告めいたことも聞かされるといふものだ。

戦争の人道化

九月二十九日 二十三ヶ國委員會は日本空軍の支那都市爆撃が「多數の婦女子を含む無辜の人民に死傷を惹起」したことを「嚴肅に非難」する決議をした。どうせ英國の吹く笛はこんな音しか出ないし、それに踊る委員會だ。

有名な胡適博士もやはり支那人である。桑港で日本軍は上海、南京その他の都市を爆撃したが損害は極めて軽微であつて、これ等の空襲は全然失敗であるなどと放送してゐる。しかも英國が音頭を取つてわが空軍の行動を掣肘せんとするのは何のためか。

非戦闘員をどうかいふのは、それこそ空論といふものだ。外務省の聲明した如く一九二二年ヘーグの空戦法會議で「敵軍用目的物と認め得るものは總てこれを空爆し得る」を強調したのは英佛ではなかつたか。

X

イタリー新聞はロンドンで日本の空爆反対デーをやつた當日、英國のアフリカ駐屯軍はタンガニカで大々的爆撃をやり無抵抗の黒人を虐殺したと皮肉つた。黒人なんかには獸道で澤山だといふわけだ。

ニューヨーク・タイムスの社説にも、日本の空襲は支那人の反日感情を激化し、外國の尊敬を失はしめるなどとあるが、日本軍は支那人や外國人に遠慮し過ぎてゐるから、胡適などに失敗呼はりされる。現に粵漢鐵道爆破の如き支那沿岸交通遮斷と同時にやらねば効果的でなかつ

たことはわかり切つてゐたが、外國人の引揚げが完了するまで、ちつと我慢して廿七日からやつとはじめたのだ。

X

戦争の人道化といふ如き結構な説教に相違ないが、日、英、米、佛、伊、和の六國代表の委員會では廣範圍の軍事目標を空襲爆撃する主義を認めた。歐洲では防空演習が何處かでやらぬ日はないほどだが、これは都市空爆に對する當然の警戒である。英國は軍用飛行機を五千臺にする計畫だがこれを戦場のみに用ふるためだと思ふものは英國人中一人もあるまい。

日本は外國の自稱試験官に操行點を高くつけて貰ふことを有難がり、支那人から日本の軍事的弱點を暴露したなどといはれることを忍び、ますます抗日意識を増長させるほどのお目出度い國ではない。そんなことで日本に失望するなら勝手にするが好い。

代用品奨励

154

九月三十日 國民精神總動員運動をいよ／＼本格的にやる。政府は一千三百萬枚の「國民は何を爲すべきか」のリーフレットを全國各戸に配付し、その宣傳期に次いで實踐期に入る。

日清戦争に初めて宣戰の詔勅を拜した國民の愛國的熱誠はむしろ政府を驚かし、中には常業を顧みずにいろ／＼に奔走するといつた風であつたが、畏くも明治大帝には更に勅語を賜はり國民の忠愛を嘉させられ、常業を勤めて富強の源を培ふべきを諭し給うたのである。

國民精神の動員はよいが「常業」を大切にすることを忘れて興奮状態に陥るのは、早くさめ易いことになるかも知れない。たとへば鯨鋒立の長く續かないのに似てゐる。

銃後の後援を強化持續する必要は今後だん／＼痛感させられるが、それは常業を怠らぬことゝ少しも矛盾しないと思はれる。

×

「非常時經濟政策への協力」といひ、資源の愛護といふことも、とかく大衆に履き違ひなく徹底させることは困難で、役人の思ふ通りにはゆくまい。消費節約が度を過ぎて中小商工業者を苦しませる結果をくれ／＼も慮るべきだ。

大藏省の役人が洋服の自治的統制をやるといふのも、この際の心掛けとして當然だが、むしろ代用品奨励運動の方がよくはないか。絹製洋服は節約の意味になるまいが、人織洋服をつくるなら洋服屋泣かせにもならない。洋服新調法度といへば、地方などで子供の小倉服まで見合せるといふやうな間違ひも起りかねない。飲食物などもその通りだ。

×

木材の節約も中流以下の貸家の新築などは抑制すべきでないのだ。現に昨今、大都市の空家がメッキリ減つてゐるが、不健康な密集住宅の改善などは國民保健上毫も閑却すべきでない。保健社會省の開店は延期されても、保健社會事業を延期してはならない。

政友會の非常時對策に「極端な統制」を戒め、農村及び中小商工業に及ぼす時局の影響に鑑み緊急適切なる對策を樹つべしとあるのは賛成だ。銃後の力を涵養するのは單純な仕事ではな

155

うのである。

日本離間は駄目

十月一日　米國の日本同情者さへ支那の悪宣傳に動搖してゐる。日本政府は沈黙することによつて世界の眼から眞實を掩ひ隠さうとしてゐるのだ、などと支那が宣傳してゐる。日本の宣傳しないことまで宣傳材料に使ふのである。

日本人は外國の評判を氣にすると、例のスチムソン先生もかいた。それで外國では日本を攻撃するに日本空軍と特筆してゐる。日本國民を離間せんとするのは認識不足も甚だしい。聯盟が日本を嚴肅に非難したり勝手に感動したりしてゐるのは、日本へ當てこする意圖も大いにあると思ふが、日本は聯盟そのものを信用しない、脱退した時から日本の悪宣傳機關となつたことは覺悟してゐる。

しかし外國に對しては、さうはゆかない。日本は宣傳下手であるといふことが、恐らくこの

際外國の日本同情者の唯一の辯護ではないかと思ふが、宣傳の下手だといふことは必ずしも日本を信用させるに役立たない。日本同情者はたゞ沈黙の外はない立場に置かれてゐるやうでは困る。勝手にいはせて置けといふ譯にもゆかないし、いつも支那に先手を打たれ、「辯解」らしい「反駁」となり、「言譯」みたいな「説明」となるのでは効果的でない。

第一、新聞はニュースを主とする、いま外國の讀者心理は悪宣傳でも何でも事件を讀みたがつてゐる。「取消」といふものは大抵讀まないものだ。このことをアドヴァタイザー紙が指摘してゐる。宣傳には一と通り新聞學の心得がなければならぬ。

なる程支那の對外宣傳は攻撃的であり、日本の對外宣傳は防禦的である。日本は俯仰天地に愧ぢないから進んで言擧げせぬといふのは外國に通用しないのだ。

潜水艦が支那のジャンクを撃沈したといふやうな根も葉もないことが相當の識者にさへ信じられてゐるのだ。日本空軍が支那の無防禦都市を爆撃して婦人子供を殺傷したといった記事が一、二の通信員によつて世界中に傳へられる影響は左ほど高を括れない。國民使節の任務も重大だが、外交機關はもつと對外宣傳に勇氣がなければならぬ。

x
日本の通信員が南京や廣東にゐないことも、たしかに損には相違ないが、上海の如く萬人環視の間に行はれる戦鬪さへ支那は嘘八百を並べてゐる。だから支那人の口車に乗せられる外人に對しては、宣傳効果の限界がある。「不公正なる非難等には敢て耳を藉さず一路その目的に邁進」するほかはない。しかも事實を語らしめるためにも、事實を知らしめねばならぬ。新聞統制上にもこの考へが必要である。

戦時の貿易

十月二日 九月下旬の貿易尻は出超三千七百餘萬圓、輸入統制が利いて棉花輸入が激減したせりもあるが、輸出が前旬より激増したのみでなく、前年の本旬よりも多く一億一千八百餘萬圓に上つたのは大いに心強い。

わが貿易戦士は世界戦線に奮闘してあらゆる困難を排し勝利を占めつゝあるのだ。英國紙な

どは、日本が戦争のために折角開拓した市場を失ひつゝあるなどと「同情」してくれたが、數字はものをいふ。

入超が昨年より五億三千餘萬圓の激増となつてゐるのも、今となつては左ほど驚かない。どのくらゐ本年中に入超になるものかの見透しが大抵ついたからだ。

平時的輸出が殖えたのは戦時的輸入が殖えたのと違つて、物價の急激な騰貴がない限り永久性がある。大入超も一時の辛抱だと思はせる。

x
支那事變で各國市場になか／＼勢力のある支那商人やユダヤ人の對日貨反感でどういふ影響を及ぼすかといふことも氣にならぬではなかつたが、綿糸布の如き九月下旬のみで前年同期より千六百萬磅に近い増加だ。案するより賣るがやすいとはこの事、何しろ安價良品は天下無敵である。

前年同期より輸出の躍進したのは、中米の四割七分増、南米の三割七分増を最高として北米も二割八分増だ。インド、エジプト、濠洲向輸出は不振だといふことだつたが、全體として減

つたのは太平洋のみだ。英國に對日經濟封鎖論の露々たるも故あるかな。

X

日本商品の世界的進出は、英國商品の世界的退却だ。日本の商賣敵として手をかへても、品をかへても、失敗の苦杯を満喫した英國が日本に好感を持つ筈もないが、支那事變以來それが俄然露骨になった。英國の對支利權が爆撃されつゝあるといふ痛切な利害感からだ。

都市空爆の發明者

十月三日

日本機の爆撃命中率にも劣らぬのは支那の虚砲命中率である。それも歐米に日本の攻撃的記事を歓迎する空氣が可なり濃厚だからだ。

歐洲各國が支那でやつて來たことは、英國のアヘン戦争、引續いた英佛聯合軍の攻撃、露國の侵略を初めとしてどう最眞目に見ても曲は支那にあるといへない歴史がある。

X

支那人をアヘン中毒にしたのも、支那人の排外心理を成長させたのも、悉く西歐各國だ。その道徳的弱味があるので、支那の排日も、日本が悪いと思ひ込む。自分達と同じ事を日本がやると即断するのだ。今日の支那支配階級は西歐のためポイルされたのだ。

タイムスはじめ、從來その記事には日本にも信者があつた新聞が、大抵見え透いた支那のデマをそのまま掲載してゐる。知識階級のうちには外國から傳はる日本の悪口を、從來どうするかと半信半疑に受取つたやうな風もあつたが、お蔭でそれがなくなつた。つまりいかに國際的利害の衝突は相互の理解を困難にするかといふことを考へさせる。必ずしも外國の批評は一笑に付しても置けないけれど、日本を正解しながら故意に悪口するのは濟度し難い。

X

ドイツ新聞は、從來スペインのボルシェヴィキの殘虐行動に目を掩つた米國新聞が、支那都市の空爆によつて日本の殘虐行爲を發見したと大騒ぎするのは滑稽だといふ。なるほど日本が初めて都市空爆といふことを發明したやうに、外國では騒ぐのだ。君達の國は何のために飛行機をつくり、何のために毒瓦斯豫防實習をやるのか。

近代武器は攻撃用よりも防禦用に有利になつた。個人的勇氣よりも機械の力が多く働くからだ。ただ飛行機の爆撃だけは攻撃に有利だといはれる。それで各國は「日本空軍」を敵視するが、「決議」や經濟制裁の威嚇でわが空軍の威力發揮を抑へられるものでない。そのことを歐米でも識るものは識つてゐる。

非戦闘員の殺傷などといつて日本を攻撃するが、支那がいふ非戦闘員とは、便衣隊のことだ。便衣隊とは制服を著ない兵隊で最も悪質な抵抗をやるのだ。これを軍事目標と同じく一網打盡的にやつつけるのが何で悪い。何で國際法違反か。

英國の財界では經濟封鎖や日貨排斥運動に反對論が高い。労働黨、自由黨、保守黨の一部が反日的だが、保守黨には世界の大局に目を注いでゐるものが多いのだ。それだから利巧者は榮える。

英米の反日大會

十月四日 英米で反日大會が催される。カンタベリー大僧正ともあるものが、一新聞主催の反日大會を主宰するに對し、吉田大使は抗議文を送つた。全國に四萬五千の信徒を有する日本聖公會も一方ならず「憂慮困惑」して警告文を發した。一日夜ニューヨークの日本糺弾大會では、ユダヤ教會の長老が支那罹災民救済と日貨排斥とを叫んだ。

宗教家が平時において世界の平和を唱へるのは當然だが、すでに日支戦闘が開始されてゐるのである。みだりに中立國の市民に對して一方的偏見を鼓吹し、反日的感情を煽揚する如きは中立國を戰爭に驅り立てんとするもので、宗教家の本分に反する怪しからぬ振舞である。

米國を歐洲大戰に捲き込むことに、宗教團體が大きな役割を努めた。反獨思想を民衆に吹き込んで、ウイルソン氏に中立を守ることが出来ないやうに仕向けたのだ。

x

米國の六平和團體が、對日ボイコットに反對し「斯様な手段は戦争回避を主とする米國にとつて危険だ」と聲明したのは、眞に平和を愛する中立國民の態度だ。凡そ他國の戦争に對し、偏見を吐くことすら中立の意義に反する。中立國は精神的にも中立でなければならぬ。一方的の排貨の如き明かに中立國民としての脱線である。

米國の反日的色彩は、國家的よりも民衆的だ。ドル外交は稀薄になつたが、米國民の東洋に關する概念をつくつたのは主として支那にゐる宣教師である。

かれ等は支那の現實を知つてゐるが、米國民に支那を悪く思はせては飯の食ひあげとなる。だから支那でさんく、布教を妨害されても、それをひた隠しにして、支那は基督教の力で、大變よくなつたと吹聴することによつて、自分の業績を示すを怠らない。

支那人濟度すべからずといふ印象を米國民に與へては、誰もそんな仕事に興味をもたなくなり、溝へ捨てるやうな金を出さなくなるからだ。宣教師が支那を助けよといふのは自分を助けるためだ。

X

次ぎに米國にはユダヤ人の勢力がある。帝政露國から迫害されて米國へ避難したユダヤ人の子孫が多い。そのユダヤ人が日露戦争では、帝政露國の敵討ちのつもりで日本に同情し、戦費を貸したのだ。その役割を果たしたシツフ氏もユダヤ人である。然るにソ聯はユダヤ人の國である。共産主義を好むと好まざるとに拘らず、ソ聯の味方となり、従つて日本に反感を抱く。米國の民衆はかくして反日的に導かれつゝある。

列國の耳が痛い

十月五日 世界各國の動きは何を示すか。支那が完全に長期抗日の不可能を觀念し、外國の干渉によつて一日も早く調停をしてもらひたがつてゐることを示すものに他ならない。

顧維鈞のジュネーブにおける論理は日本の戦争目的が結局支那から外國の權益を驅逐し、アジアから歐米の領土を取り上げんとするものだといふのだ。支那を助けなければ、今度はお前さん達の困る番だといった調子であるが、それがなか／＼聯盟を感動させる。

顧維鈞は人口過剰の壓迫が日本の大陸政策の口實になつてゐるけれど、台灣には日本人が廿五萬人しか植民せず、朝鮮には五十萬人しかをらない。人口密度はベルギーほどもなく、支那も地方によつては日本より多いなどと弁じたが、顧先生の演説で一番耳が痛かつたのは、老大な領土に自國民は一向植民せずして日本の移民を排斥してゐる國々でなかつたであらうか、尤もそれは彼等に良心があると假定してのことだ。

殊に顧維鈞が日本は米國から棉花を、米國及び印度から石油を、印度から鐵を、カナダ、スカンディナヴィアからパルプをといった様に原料を外國から買つてゐることを述べ立てたのは、經濟封鎖をさせようといふ意味を含んでゐるのである。今日、ややもすれば經濟封鎖を以て日本を恐喝せんとするのはますます日本の決意を固めさせることになる。

しかし日本の欲するのは支那の領土ではなく、外國の權益驅逐でなく、平和的通商と原料の確保とにあるのは、屢ば聲明した通りである。

地中海浪高し

十月七日 地中海監視中の英驅逐艦が襲撃されたのはすつかり海賊になめられてゐる、地中海の海賊物語りはいよいよ興味津々たるものだ。

英佛が大骨折でニオン協定をつくり、今度はイタリアを入れて三國會談をやらうとして、いろいろ嚇し文句、すかし文句取り交せて交渉したが、ヒットラー氏とスツカリ握手して歸つたムツソリーニ氏は、苟くもスペイン問題を審議するのにドイツを除くものにはできないといひ張り、英佛は三國會談できめ、あとでスペイン不干渉委員會に付議すればよいではないかと口説いても、いつかな承知せぬ。お負けにムツソリーニ氏がフランコ將軍に急速な勝利を希望する密電を發したといふので、英佛政府の折角準備した三國會談のお膳立が蹴飛ばされた形だ。

そこへもつて來て英驅逐艦が襲撃されたのだから、誰も一應はイタリアを疑ふわけだが、一方英佛軍の海軍専門家會議の結果、イタリアは地中海警備協定を正式批准すると言明してゐる

から變になつてくる。

こゝでソ聯の態度を見る必要がある、ソ聯は、英佛がイタリアと三國會談をやらうとして御機嫌取をするのを嫉妬するのは當然だ。先日來の海賊潜水艦についても、イタリアやドイツにいはせると、ソ聯の仕業である。ソ聯の汽船も襲撃されてイタリアのは一隻しかやられてゐないから辻褃は合はぬが、とにかく英佛がイタリアに接近しつゝある外交工作が、海賊潜水艦のために、しばしばぶち壊されるのは注意に値する。

X

ソ聯はすでにスペインの不干渉體制を廢棄せよといふ爆弾的通牒を出した。つまり陸上並に海上の監視をやめてしまひ、フランス、スペインの國境監視も撤廢し、自由に政府軍援助に乗出さうといふのだが、英佛もイタリアに對してスペインの義勇兵を引揚げる場合には、佛蘭西の國境を開くぞといつてゐる。

要するに英佛は、イタリアの干渉がなければソ聯が干渉しないと前提してゐるが、イタリアはドイツと共に飽くまでスペインの赤化を許さぬといふ建前だ。ソ聯は英佛と獨伊との接近を

不利とし、獨伊はソ聯を英佛から引離さうとする。また三國會談はイタリア、ドイツの離間策だといふ見方もあり複雑を極める。

しかしスペインが獨伊の支配に歸することは、英佛に取つて忍ぶべからざる理由がある。第一、世界大戰に際しフランスは植民地から土人兵を本國へ輸送することが困難になる。英國に取りりても地中海は生命線だ。

不干渉を撤廢すれば各國の公然たる援助だ。それで本格の世界戦争になるかも知れぬ。地中海の海賊を怨むものは、かく支那であらう。

勝手な論理

十月七日 外務省は積極的に「國際正義」を強調して米大統領のシカゴ演説に率直な答弁をした。持てる國どころか、黄金なんか持ち過ぎて持て余してゐる國が、持たぬ國日本に對して何をしてゐるかを思ふ位の良心は持ち合せてもよい。移民排斥も米國文明のためといふ論理

は、白人國にしか通用せぬと思ふが、殊に支那事變に對して日本に當てこすつたのは、國內消費として聞捨てにはされない。

米國大統領はたゞ侵略國を論難したのだが國の名を擧げなくても、それは大統領の「公平」を示すものとは思はれない。

大統領のいふところによれば、アメリカ人は戰爭を嫌惡し平和を望む、それ故にこそ活潑に平和を求めることに努力してゐるのださうだ。しかしいかなる戰爭に對しても、中立國の地位は裁判官たる地位と相容れない。自分の國だけ正義人道の最高判決權をとりするのは、全智全能の神様を氣取るに異ならない。

×

裁判といへば、ルーズヴェルト氏の先頃任命した大審院判事のブラック氏が、以前キュー、クラックス團に籍を置いたことを氏自身も認めたので、米國政界の大問題となつてゐる。

同團は、南北戰爭後、南部諸州に組織された秘密反動團體で黒人に殘虐な私刑を行ひ、非人道的な東洋人排斥運動をやることで有名である。

かういふ人種的偏見やら宗教的狂熱やらで凝り固まつてゐる右翼團體に關係した人が、大審院の判事に任命されたのだ。初め新聞で素破抜かれた時はまさかと思つた米國民多數は、本人が現在團員でないと打消しながら以前のことを自白したので、呆れてしまつた。民主黨員も當惑の體だ。

×

帝人事件は検事の鬼門だ。さきに黒田検事は恩給年限に手が届くところで病死し、今度は枇杷田検事が妙な噂から辭職した。

シヤムの棄權

十月八日 米國務省は、遂に支那事變に對して公然、古證文を持ち出した。これは米國が二つの誤謬に陥つた事を語る。一は極東の現實に對する迂濶を示し、二はそれがために惡性の宣傳に感染したことを示すのだ。

日本は今でも九國條約、不戰條約をたゞの紙屑とはいはぬが、現在の事態に適用するのは、慢性胃腸病の處方箋をもつて、コレラに投薬せんとするに異ならない。日本は猛烈な病毒と戦ひつゝあるのだ。醫者のほか、接近無用である。第三國は、醫者の決死的奮闘に信頼し、自ら「隔離」の業務を守り、余計なお節介をしないことだ。もつとも兩條約とも病理を説いて處方箋には觸れない。九國會議でどんな決議をするか知らぬが決議は滿洲事變以來珍しくない。

X

四年前、聯盟の四十二票に對する一票の棄権によつて、日本に千萬無量の好意を感じしめたシヤムは、また日支問題報告書に棄権した。日本は忘恩國でない。

近衛公を會長とするシヤム協會の會報によれば、盤谷の居留民に山田長政の記念碑建設計畫があり、シヤム人も熱心に賛成し、日本内地でも寄附金募集中だが、これは時節柄でも遠慮に及ぶまい。

日本はかつて米國と共に率先してシヤムの領事裁判權撤廢、關稅自主權の回復に原則的承認を與へたが、シヤムは目下更に各國と完全な平等條約を結ばんとしてゐる。日本が最善の道を

とるべきは勿論だ。

日暹の親善關係を英佛が嫉妬してゐることは、外字新聞の論調にも見える。昨年の日本觀光團印象記に、東京大阪のホテルの女中がいづれも正直に、落した金、間違つて渡した金を返したことを述べ、これが日本であり、日本人の自尊心であるといつてゐる。

X

新劇の友田恭助君が立派に戦死した。事變で日本人もインテリに對する認識を深めた。インテリも一たん緩急あれば悉く勇士だといふのは新しい常識である。

應召美談、戰場美談、銃後美談は一つの見本である。誰も彼も、その場に臨み、その役割を
持たせられ、ば負けず劣らず勇士となる。全體戦はかくして日本において理想的に行はれる。

言葉は行動を生む

十月九日

米國は九國會議に参加する。九國條約は華府會議の產物だから、聯盟がそれで

米國を釣寄せた。ルーズヴェルト氏はウイルソン氏の亡靈にとりつかれて危険な道を歩みつゝあるらしく感じられるが、案外自制心は強いかも知れぬ。

大統領の演説には二つの矛盾した言葉を含んでゐる。「戦争に捲込まれたくない」のが本音なら「平和に協力」するのに限度がある。米國人もその眞意を捕捉するに苦しみ、思ひ／＼の註解に多量のインキが消費されてゐる。

世界大戦にウイルソン大統領を調子に乗らせた米國民は、あとでは口を拭つて氏を四面楚歌の窮地につき落したのだ。自分の台詞に陶醉し自分の演技に感激する政治家は、ウイルソン氏の覆轍に鑑むべきである。

X

ハル國務長官が、齋藤大使に對し、米國の方針は變らぬが世界的空氣に對應する意味を見せる必要がある、といった意味は滿更不可解ではない。

言葉は言葉を生むし、また行動を生む。國務省の事那事變に對する言葉の變化が、何によるかを思へば、その力の作用は言葉の變化に止まらないことも考へなくてはならぬ。

殊に大統領は、赤化を何ともいはず、一方的に全體主義國を非難したのは、英國の現實主義に引きずられてゐるのだと思はれる。英國外交政策は、その現實の權益に對する脅威を幻想することによつて、日本に反對し、赤化の脅威には左ほど關心しないやうだ。英國は現實主義だから「思想」よりも目に見える力を恐れるのだ。

地中海問題で極力、獨伊を懷柔せんとするのは、東洋に威力を示さんためと見られる。米國さへ味方にすれば、英國は決定的に極東に乗り出すのだ。

しかし日本の經濟力と精神力とを誤算しないものは、日本を威嚇することの無効で且つ危険なことを知つてゐるであらう。

孫逸仙と日本

十月十日 國際聯盟は支那侵入といひ、米大統領は支那侵略といふ。前者の方が用語は慎重だつた。大統領は日本とも、どこともいはずなかつたが、アメリカ式の修飾しない言葉を用ひ

た。これに對し河相情報部長が率直に答へたのが、閣議で問題になつた。米國では大統領の演説を小ツビどく非難してゐる上院議員があり、新聞がある。

しかし米國の如くザツクバランにはれた方が陰性にネチネチ工作をやられるよりは日本人の性格として左程厭ではない。その誤つた言葉を指摘できるからだ。今でも日本國民は米國に悪感を抱いてゐない。

x

情報部長の聲明は、アメリカ人には無遠慮にやつて構はぬといふ常識からだと思ふが、新聲明が事實の論理でグン／＼押したのは更によい。

上海の松井大將の聲明は威あつて猛からず、小兒をも懐かせる武人の面目を發揮してゐる。「外國の權益に對しては最善の努力をもつてこれを尊重保護し秋毫も冒すところなし」の一句、千鈞の力あり。各國に正義を聞く耳あらば、迷夢をさますに足るのである。

大將の「中國人士に告ぐ」と題する談話も、溢るゝばかりの仁愛の精神が籠つてゐる。大將は孫中山が中國の復興と共に東亞の平和を念願努力したことを述べたが、孫逸仙の大業を成す

に至つたのは半ば日本志士のお蔭であつた。氏は青年の頃からしば／＼日本に來り中山某といふ標札をかけて東京に生活し、新聞人にも多くの友人を有つてゐた。日本の實業家でかれに經濟的援助を與へた人もあり、犬養氏なども殊に面倒を見た。それはかれが「東亞黃種の屈辱を雪ぎ支那四億萬の蒼生を救はん」とする烈々たる意氣に共鳴同情したからだ。

x

孫逸仙は後にソ聯と握手したが、一時の方便であつたに相違ない。だからその當時、かれの生前の志を知つてゐた蔣介石はソ聯と手を切つたが西安で捕虜になつた。「支那官民」が正氣に還りさへすれば、日中の提携による東洋の平和は招來される。これは毫も人種的排外思想を含む意味ではない。

英國の良心

十月十一日

英首相の議會演説はさすが藝術的で苦心慘愴の作だと思はれる。都市空爆と

いふことを日本獨特の戰術かの如くいふものと違ひ、スペインの空中戦と並べて取扱ひ、大戰争としては不可避の付隨物と斷じた。

わが空軍が世界空軍史に輝かしい記録をつくりつゝあるので、絶大の脅威を感じ、「戦慄すべき」状態などといふに至つた。支那空軍の如く非戦闘員を目標として空爆をやつても、弱けりや大して問題にならない。

米國陸軍は頻に「空の要塞」と誇る超重爆機をつくり、去る七月から廿六台注文したが、これも「活潑に平和探求に努力」してゐる證據には相違ない。一、二の英紙は大統領の演説を「軍備擴張の目的を有するもの」だとして見てゐる。對内消費薬もいろ／＼ある。

X

とにかく、米大統領の演説は結果においてたしかに平和的である。何となれば、米國の輿論は決定的に戦争招來に反對であることが、これではつきりした。六平和團體は、大統領の「戦争をなくす戦争」に米國民を捲込まうとするのに反對してゐるし、上院議員も對日干涉反對派が優勢である。米國民は大統領を信用せず、英國のために火中の栗を拾はんとして大火傷

をする危険を知つてゐる。よく／＼大戰に懲りたと見えるが、懲りるのは賢明だ、しかし、反日空氣はかなり濃厚だ。

英國の輿論も冷靜になつたといふが、これは「英國の良心」が然らしめたのでない。米國の風向きがよくないからだ。地中海の空模様も影響しないではない。

X

帝政露國時代の外交史家は曰く、「各國の對清勢力の進展はその行き方が違ふ。英國は砲彈をもつてし、露國は外交をもつてす」と。

戦争らしい戦争をしないで支那を侵略したのは露國だが、ソ聯もその遺傳心理で支那を侵略してゐる。ソ聯の侵略には領土的と思想的とあるが、米國人などがあまり知らない奥地を侵略してゐる。日本の侵略呼ばはりをソ聯代表が聯盟をやつてゐる。「世界の良心」とはかくの如きものである。

勝利に驕らぬ

十月十二日 日清戦争は明治廿七年七月廿五日砲火が開かれ、八月一日宣戦の詔勅渙發となり九月中旬、平壤の陸戦と黄海の海戦に大勝を占めて大勢が定まった。陛下には勅語を陸海兩軍に賜ひ、將士の功勞を嘉賞し給うたのである。

今回は七月上旬蘆溝橋事件に端を發し、局地解決の努力成らず、北平、天津における數日の戦闘にて廿九軍の主力は早くも潰滅したが、第二上海事變勃發し、政府は八月十五日に至つて「支那軍の暴戻を膺懲」する旨を聲明して支那事變が展開されたので、それからまだ滿二ヶ月にもならぬが、北支では保定、滄州の陥落に次いで石家莊の占據となり、津浦、平漢、平綏三方面の躍進となつて戦局は決定的に有利となつた。

x

上海戦線は陸戦隊の寡兵よく大敵に當り、十數日の善戦、敵の計畫を畫餅に歸せしめ、陸軍

の敵前上陸決行以來、夙償しに堅固なる要塞的陣地を破り、十月五日までにわが軍の收容した敵の遺棄死體五萬六千七百六十七、捕虜五百八十、松井最高指揮官は「近き將來において軍は決戦的大打撃を加へ、上海の敵を一舉に片づけようとしてゐる」と語つた。

更に海軍は全支沿岸一帯に支那船舶の航行遮断を行ひ、また撃墜爆破の敵機三二四機に上り飛行場、兵器廠等の軍事施設に多大の打撃を加へ、南京は死の街となり、敵の鬪志は根底から崩れ出したのである。さきには見え透いた嘘八百の捷報で内外を欺かんとした蔣介石も、支那存亡の危機などと悲鳴し、軍費調達に各國を遊説して來た孔祥熙も「日本側がリードさへすれば支那は直ちに休戦に應ずる用意がある」などと記者團に公言するに至つた。

x

日清戦争には何といつても大政治家の李鴻章あり、列國に泣きついて交渉を乞うたが、日本が毅然として動かぬので、廿八年三月中旬媾和を求めて來朝した。南京政權は恐らく今なほ列國の干涉に一縷の望を囑し、弱音を吐いてもゐるが、列國をして權益の脅威を感じしめんとする手である。英國の焦躁もそこにある。